

能勢町在宅介護実態調査
報告書(案)

第 10 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けて

令和 8(2026)年 月

能勢町

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 報告書作成にあたって	1
II. 調査結果	2
1. 回答者の属性について	2
(1) 調査に回答した人	2
(2) 調査対象者の年齢	3
(3) 調査対象者の性別	3
(4) 調査対象者の要介護度	4
2. 在宅介護の状況について	5
(1) 世帯類型	5
(2) 家族介護の有無	6
(3) 主な家族介護者	8
(4) 家族介護者の性別	10
(5) 家族介護者の年齢	11
(6) 家族介護者が行っている介護	13
(7) 介護のための離職の有無	15
(8) 介護保険以外の支援・サービスの利用状況	17
(9) 必要な支援サービス	20
(10) 施設等の入所の検討状況	22
(11) 抱えている傷病	24
(12) 訪問診療の利用	26
(13) 介護保険サービスの利用	26
(14) 介護保険サービス未利用の理由	27
3. 家族介護者の状況について	29
(1) 介護者の勤務形態	29
(2) 介護者の働き方の調整	31
(3) 効果があると思う勤務先からの支援	34
(4) 介護者の就労継続について	37
(5) 介護者が不安に感じる介護	38
4. 介護の状況と施設入所の意向について	41
5. 仕事と介護について	45
(1) 介護者の勤務形態と家族等の介護の頻度	45
(2) 介護者の勤務形態と介護者が行っている介護	45
III. 考察～住み慣れた地域で暮らし続けるために～	47

I. 調査の概要

1. 調査の目的

能勢町在宅介護実態調査は、能勢町第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定にむけて、在宅介護サービスを利用する要支援・要介護認定者を対象に、在宅介護の抱える課題の特定に資することなどを目的として実施しました。

2. 調査概要

調査期間	令和8年3月23日～令和8年4月22日
調査方法	郵送による調査票の配布・回収
調査対象者	介護保険要支援・要介護認定者（介護保険施設入所者、及び、介護保険サービス利用実績のない者を除く）
調査対象者数	486
有効回答数	272
回収率	57.2%

3. 報告書作成にあたって

- ① 経年変化を見るため、比較可能なものについては
 - 第9期能勢町在宅介護実態調査（令和5年）
 - 第10期能勢町在宅介護実態調査（令和8年）との比較検討を行いました。
- ② 要介護別のクロス集計は「要支援」（要支援1～2）「要介護1～2」「要介護3～5」の区分で集計分析を行いました。
- ③ 継続就労の可否については、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の合計を「継続可能」、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」の合計を「継続困難」として集計分析を行いました。
- ④ 家族介護の有無については、「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」と「週に1～2日ある」と「週に3～4日ある」と「ほぼ毎日ある」の合計を「家族介護あり」として集計分析を行いました。
- ⑤ わかりやすい報告書にするため、グラフ表示や文中における質問項目の表示を簡略にしている場合があります。
- ⑥ 割合(%)は端数処理(小数点第2位で四捨五入)を行っているため、合計が100%にならない場合があります。

II. 調査結果

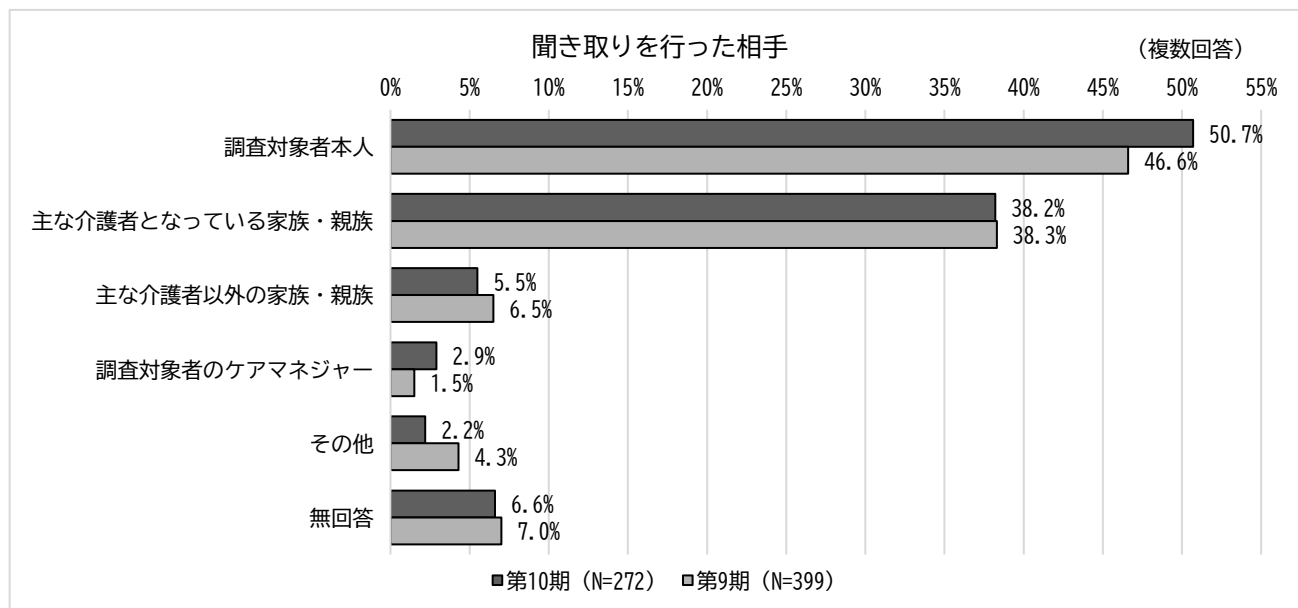
1. 回答者の属性について

(1) 調査に回答した人

《経年変化》

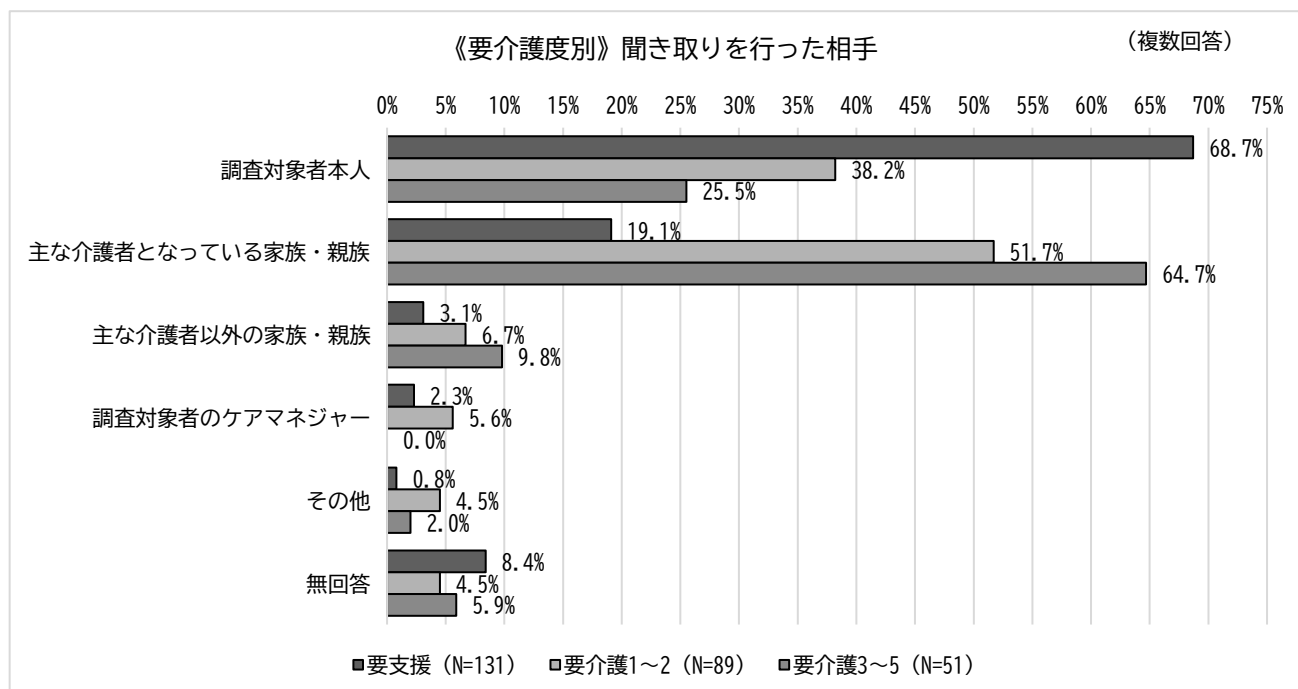
「調査対象者本人」が50.7%で最も多く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」が38.2%となっています。

第9期との比較では、「調査対象者本人」が4.1ポイント増加しています。



《要介護度別》

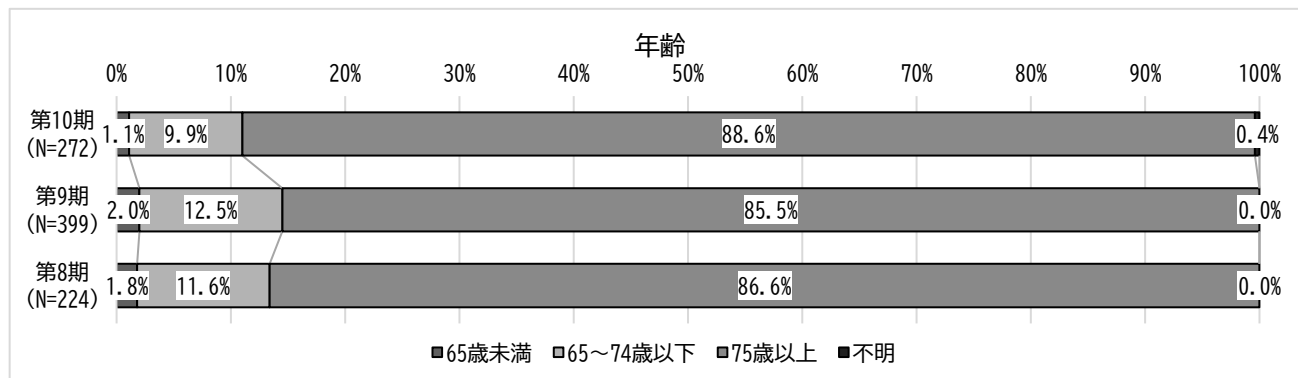
「調査対象者本人」は「要支援」が68.7%で最も多く、「要介護3～5」は25.5%で最も少なく、43.2ポイントの差があります。



(2) 調査対象者の年齢

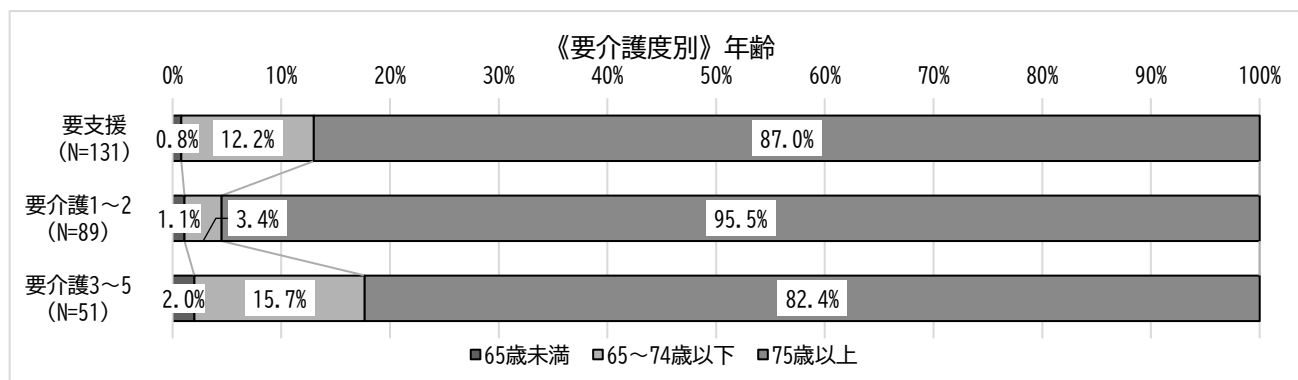
「75 歳以上」が 88.6%で最も多く、次いで「65～74 歳以下」が 9.9%、「65 歳未満」が 1.1%となっています。

有意な経年変化はみられません。



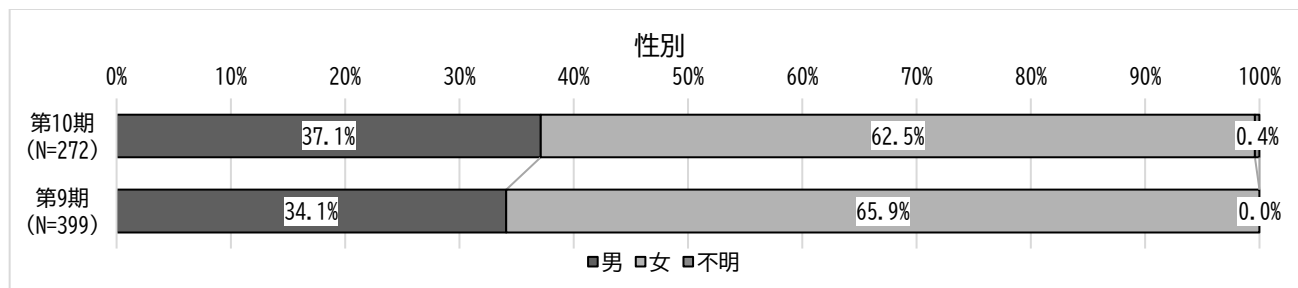
《要介護度別》

「要支援」は「75 歳以上」が 87.0%、「65～74 歳以下」が 12.2%、「65 歳未満」が 0.8%、「要介護 1～2」は「75 歳以上」が 95.5%、「65～74 歳以下」が 3.4%、「65 歳未満」が 1.1%、「要介護 3～5」は「75 歳以上」が 82.4%、「65～74 歳以下」が 15.7%、「65 歳未満」が 2.0%となっており、「要介護 1～2」の高齢化が最も進んでいます。



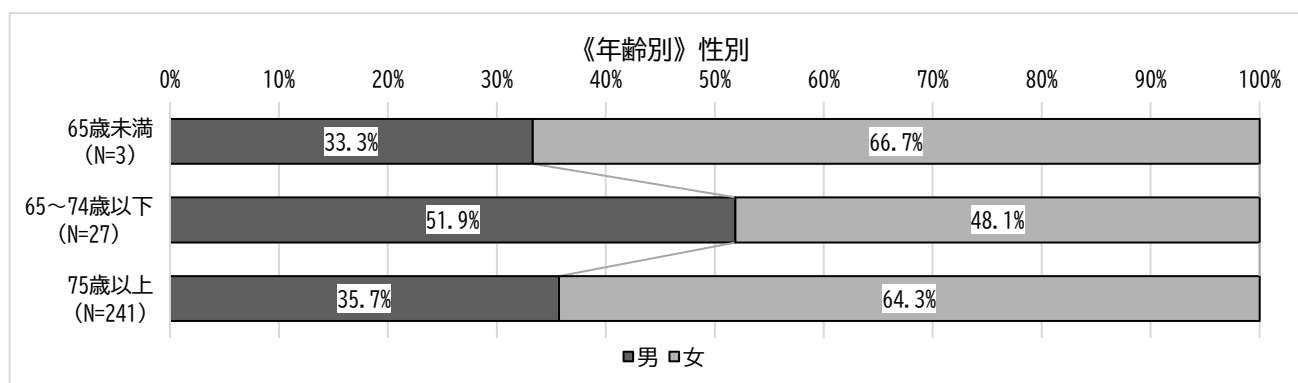
(3) 調査対象者の性別

女性が 62.5%で最も多く、次いで男性が 37.1%となっており、第 10 期は第9期に比べ、女性の比率がわずかに増加しています。



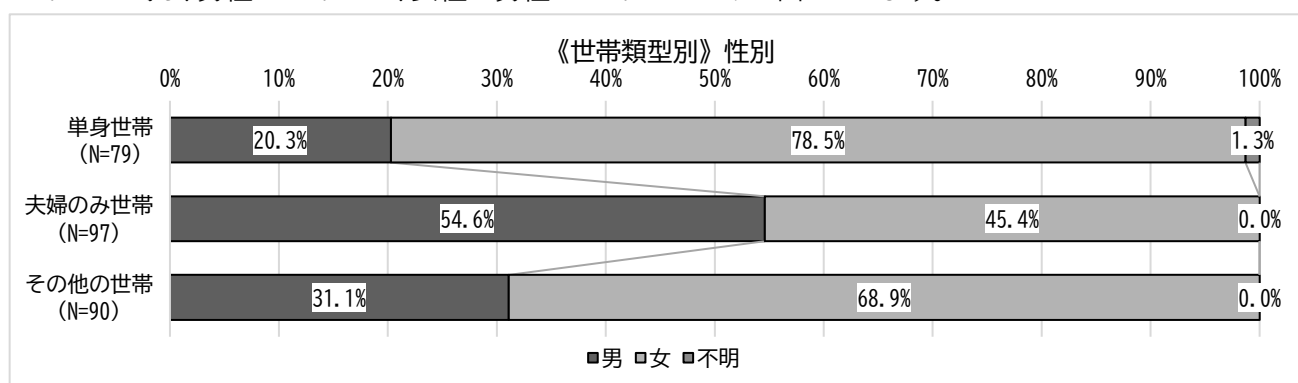
《年齢別》

「75 歳以上」は女性が 64.3%に対し、男性は 35.7%と、女性が男性を 28.6 ポイント上回り、「65～74 歳以下」は男性が 51.9%に対し、女性は 48.1%と、男性が女性を 3.8 ポイント上回っています。



《世帯類型別》

「単身世帯」は女性が78.5%に対し、男性は20.3%と、女性が男性を58.2ポイント上回り、「夫婦のみ世帯」は男性が54.6%に対し、女性は45.4%と、男性が女性を9.2ポイント上回り、「その他の世帯」は女性が68.9%に対し、男性は31.1%と、女性が男性を37.8ポイント上回っています。

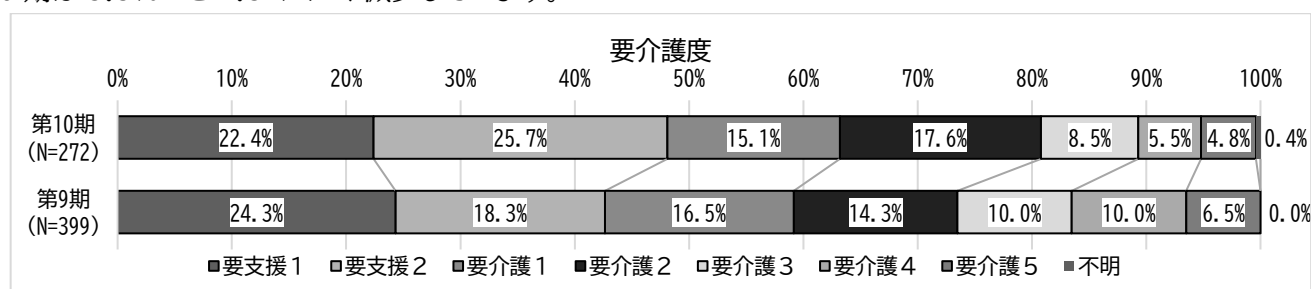


(4) 調査対象者の要介護度

《経年変化》

「要支援2」が25.7%で最も多く、次いで「要支援1」が22.4%、「要介護2」が17.6%となっています。

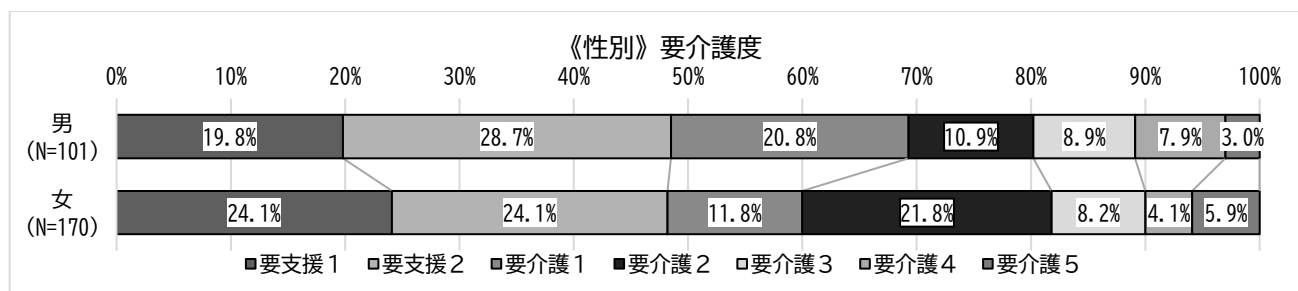
経年変化をみると、「要支援2」は第9期の18.3%から第10期は25.7%へと7.4ポイント増加し、「要介護2」は第9期の14.3%から第10期は17.6%へと3.3ポイント増加し、「要介護4」は第9期の10.0%から第10期は5.5%へと4.5ポイント減少しています。



《性別》

「要介護1」は男性が20.8%に対し、女性が11.8%と、男性が女性を9.0ポイント上回り、「要支援2」は男性が28.7%に対し、女性は24.1%と、男性が女性を4.6ポイント上回っています。

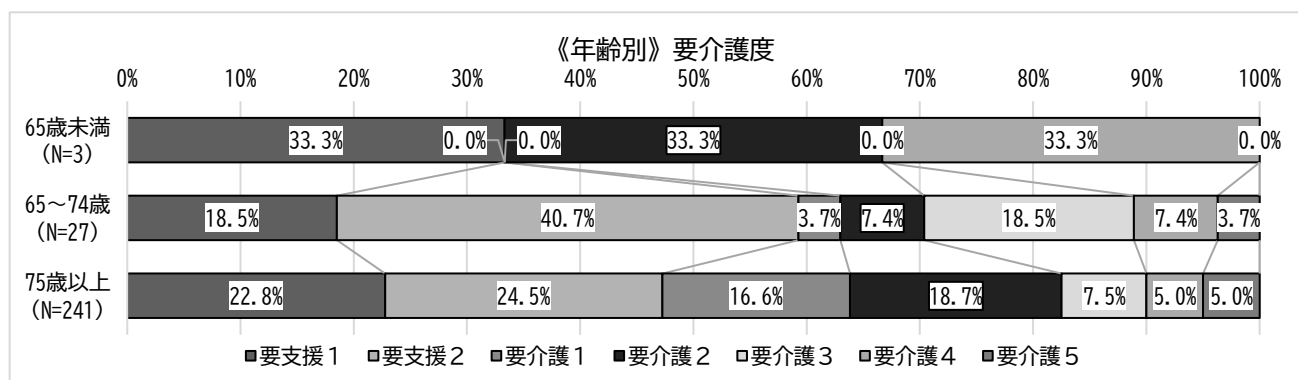
また、「要介護2」は女性が21.8%に対し、男性が10.9%と、女性が男性を10.9ポイント上回り、「要支援1」は女性が24.1%に対し、男性は19.8%と、女性が男性を4.3ポイント上回っています。



《年齢別》

「要支援2」は「65～74 歳」が 40.7%に対し、「75 歳以上」が 24.5%と、「65～74 歳」が「75 歳以上」を 16.2 ポイント上回っており、「要介護3」は「65～74 歳」が 18.5%に対し、「75 歳以上」が 7.5%と、「65～74 歳」が「75 歳以上」を 11.0 ポイント上回っています。

また、「要介護1」は「75 歳以上」が 16.6%に対し、「65～74 歳」が 3.7%と、「75 歳以上」が「65～74 歳」を 12.9 ポイント上回っており、「要介護2」は「75 歳以上」が 18.7%に対し、「65～74 歳」が 7.4%と、「75 歳以上」が「65～74 歳」を 11.3 ポイント上回っています。



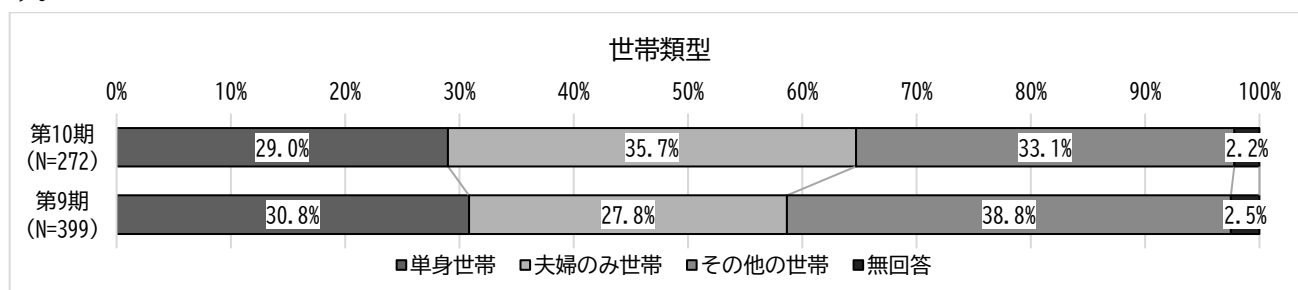
2. 在宅介護の状況について

(1) 世帯類型

《経年変化》

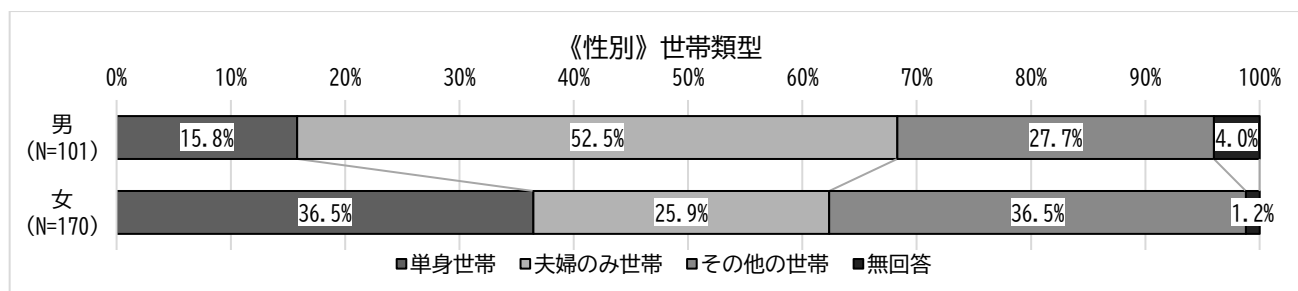
「夫婦のみ世帯」が 35.7%で最も多く、次いで「その他の世帯」が 33.1%、「単身世帯」が 29.0%となっています。

第 9 期との比較では、「夫婦のみ世帯」が 7.9 ポイント増加し、「その他の世帯」が 5.7 ポイント減少しています。



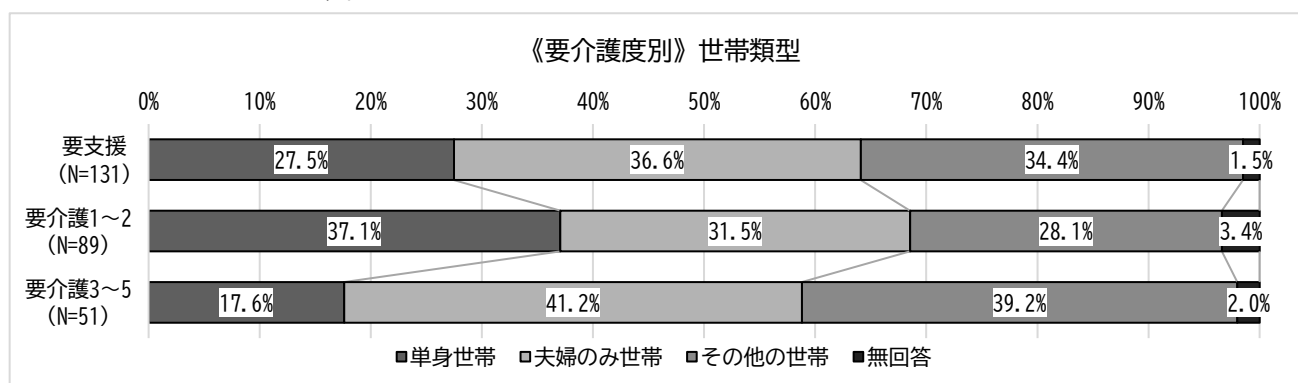
《性別》

「夫婦のみ世帯」は男性が 52.5%に対し、女性が 25.9%と、男性が女性を 26.6 ポイント上回っており、「単身世帯」は女性が 36.5%に対し、男性が 15.8%と、女性が男性を 20.7 ポイント上回っています。



《要介護度別》

「単身世帯」は「要介護 1～2」が 37.1%で最も多く、「要介護 3～5」が 17.6%で最も少なく、19.5 ポイントの差があり、「その他の世帯」は「要介護 3～5」が 39.2%で最も多く、「要介護 1～2」が 28.1%で最も少なく、11.1 ポイントの差があります。

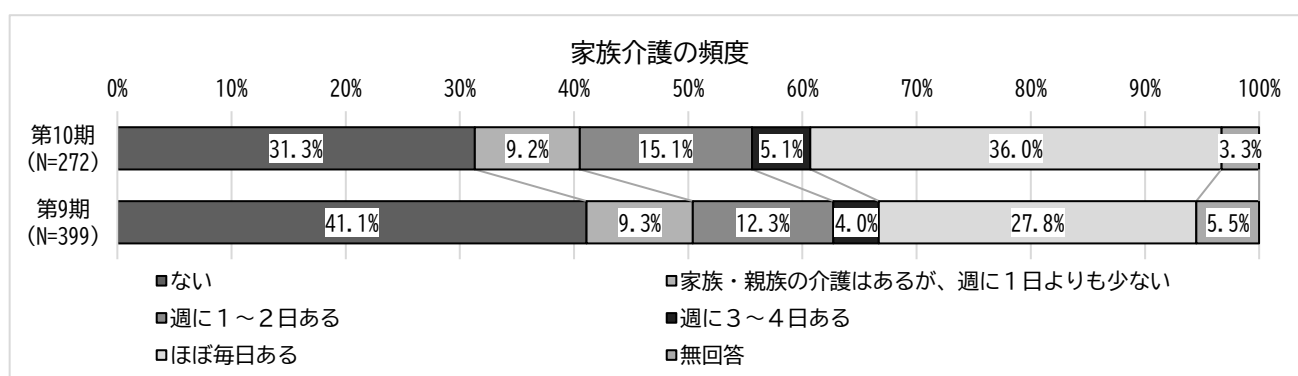


(2) 家族介護の有無

《経年変化》

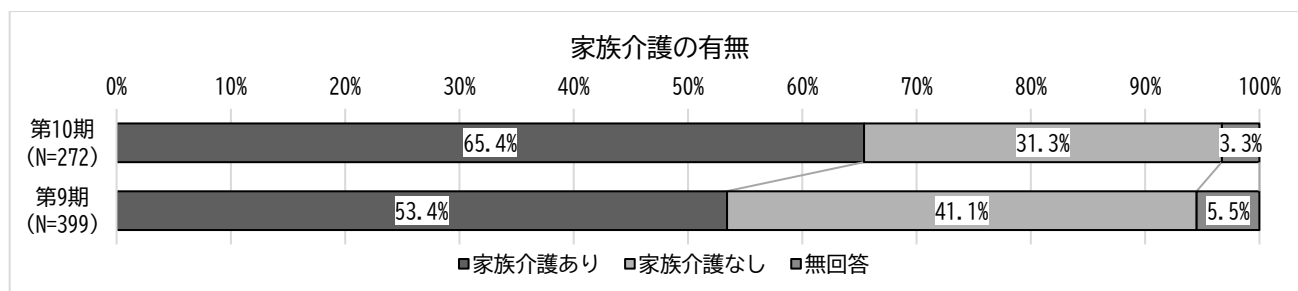
「ほぼ毎日ある」が 36.0%で最も多く、「週に1～2日ある」が 15.1%、「家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない」が 9.2%、「週に3～4日ある」が 5.1%がとなっており、それらを合計した『家族介護あり』は 65.4%となっています。また、「ない」が 31.3%で、『家族介護あり』が「ない」を 34.1 ポイント上回っています。

第 9 期との比較では、『家族介護あり』が 12.0 ポイント増加し、「ない」が 9.8 ポイント減少しています。



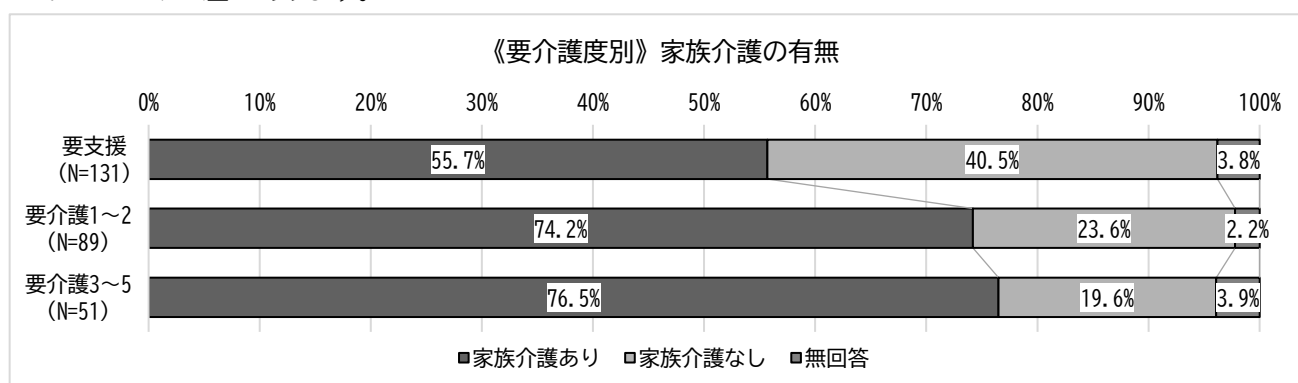
また、家族介護の有無でみると、「家族介護あり」が 65.4%に対し、「家族介護なし」は 31.3%と、「家族介護あり」が「家族介護なし」を 34.1 ポイント上回っています。

経年変化をみると、「家族介護あり」は第 9 期が 53.4%に対し、第 10 期は 65.4%と、12.0 ポイント増加しています。

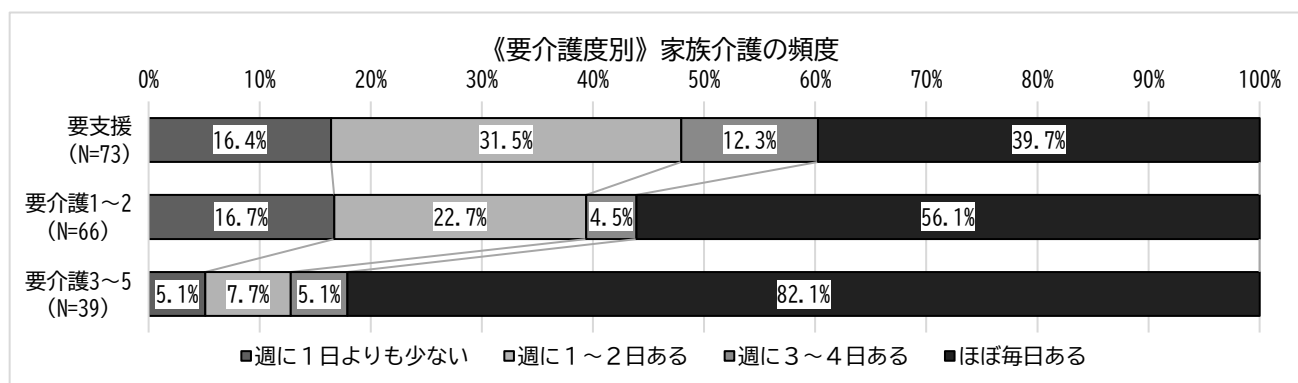


《要介護度別》

家族介護の有無は、「家族介護なし」は「要支援」が 40.5%で最も多く、「要介護 3～5」が 19.6%で最も少なく、20.9 ポイントの差があり、「週に1日よりも少ない」と「週に1～2日ある」と「週に3～4日ある」と「ほぼ毎日ある」を合わせた『家族介護あり』は「要介護 3～5」が 76.5%で最も多く、「要支援」が 55.7%で最も少なく、20.8 ポイントの差があります。

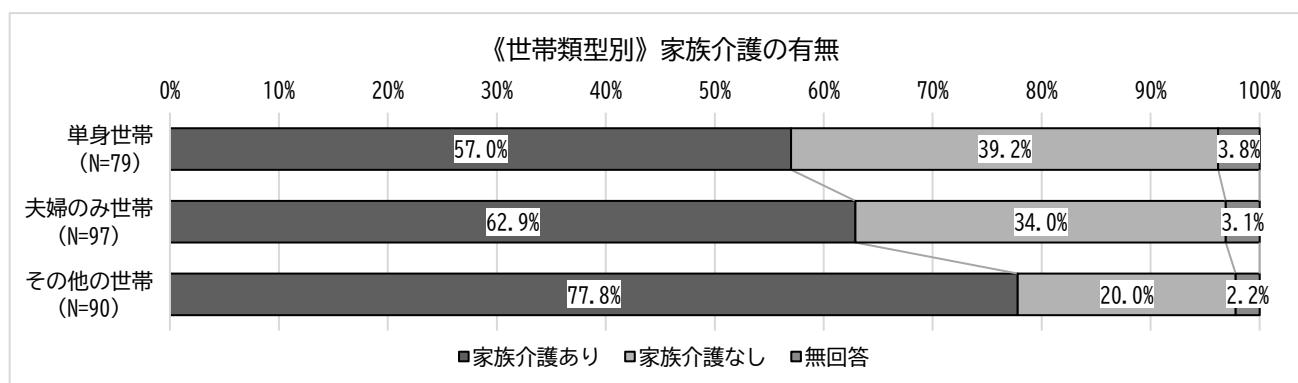


また、要家族介護の頻度は、「ほぼ毎日ある」は「要介護 3～5」が 82.1%で最も多く、「要支援」が 39.7%で最も少なく、42.4 ポイントの差があり、「週に1～2日ある」は「要支援」が 31.5%で最も多く、「要介護 3～5」が 7.7%で最も少なく、23.8 ポイントの差があり、「週に1日よりも少ない」は「要介護 1～2」が 16.7%で最も多く、「要介護 3～5」が 5.1%で最も少なく、11.6 ポイントの差があります。

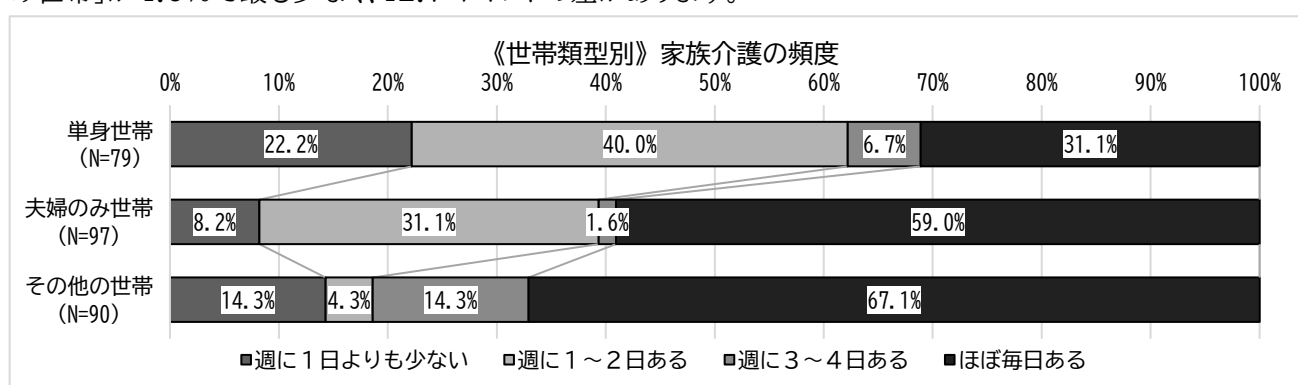


《世帯類型別》

家族介護の有無は、「週に1日よりも少ない」と「週に1～2日ある」と「週に3～4日ある」と「ほぼ毎日ある」を合わせた『家族介護あり』は「その他の世帯」が 77.8%で最も多く、「単身世帯」が 57.0%で最も少なく、20.8 ポイントの差があり、「家族介護なし」は「単身世帯」が 39.2%で最も多く、「その他の世帯」が 20.0%で最も少なく、19.2 ポイントの差があります。



また、家族介護の頻度は、「週に1～2日ある」は「単身世帯」が40.0%で最も多く、「その他の世帯」が4.3%で最も少なく、35.7ポイントの差があり、「週に3～4日ある」は「その他の世帯」が14.3%で最も多く、「夫婦のみ世帯」が1.6%で最も少なく、12.7ポイントの差があります。

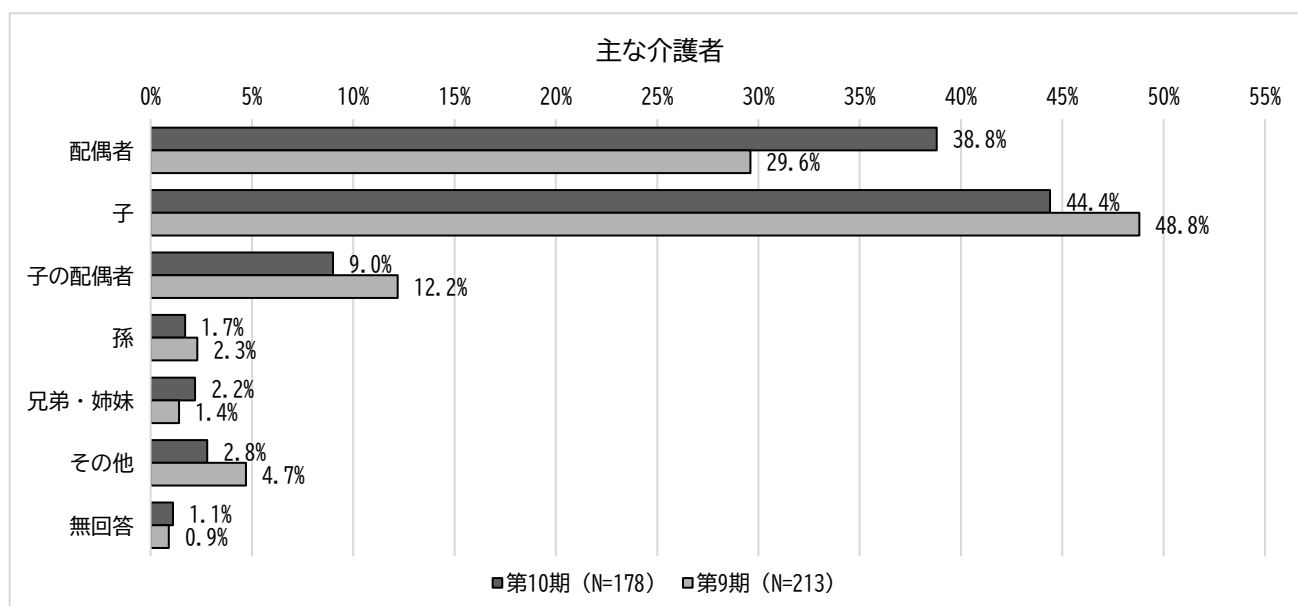


(3) 主な家族介護者

《経年変化》

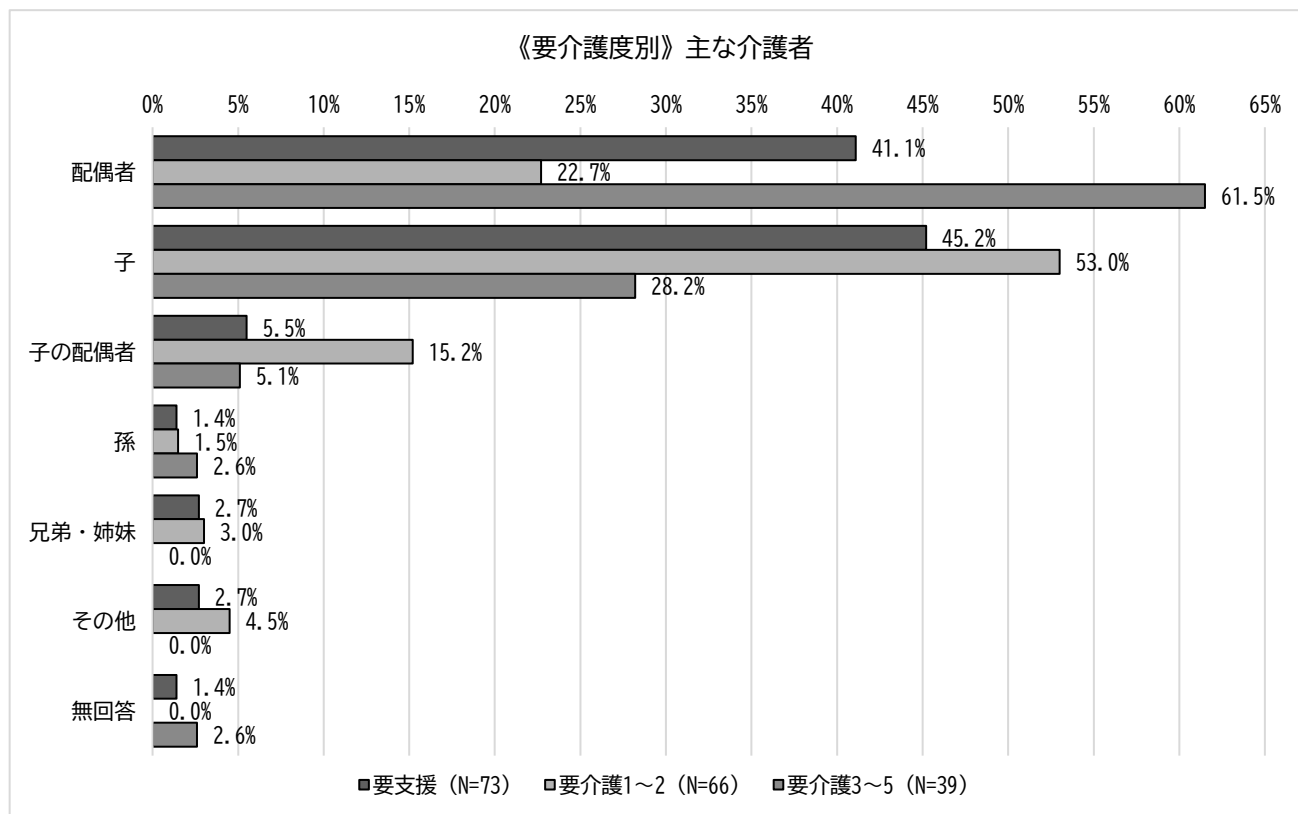
「子」が44.4%で最も多く、次いで「配偶者」が38.8%、「子の配偶者」が9.0%となっています。

第9期との比較では、「配偶者」が9.2ポイント増加し、「子」が4.4ポイント、「子の配偶者」が3.2ポイント減少しています。



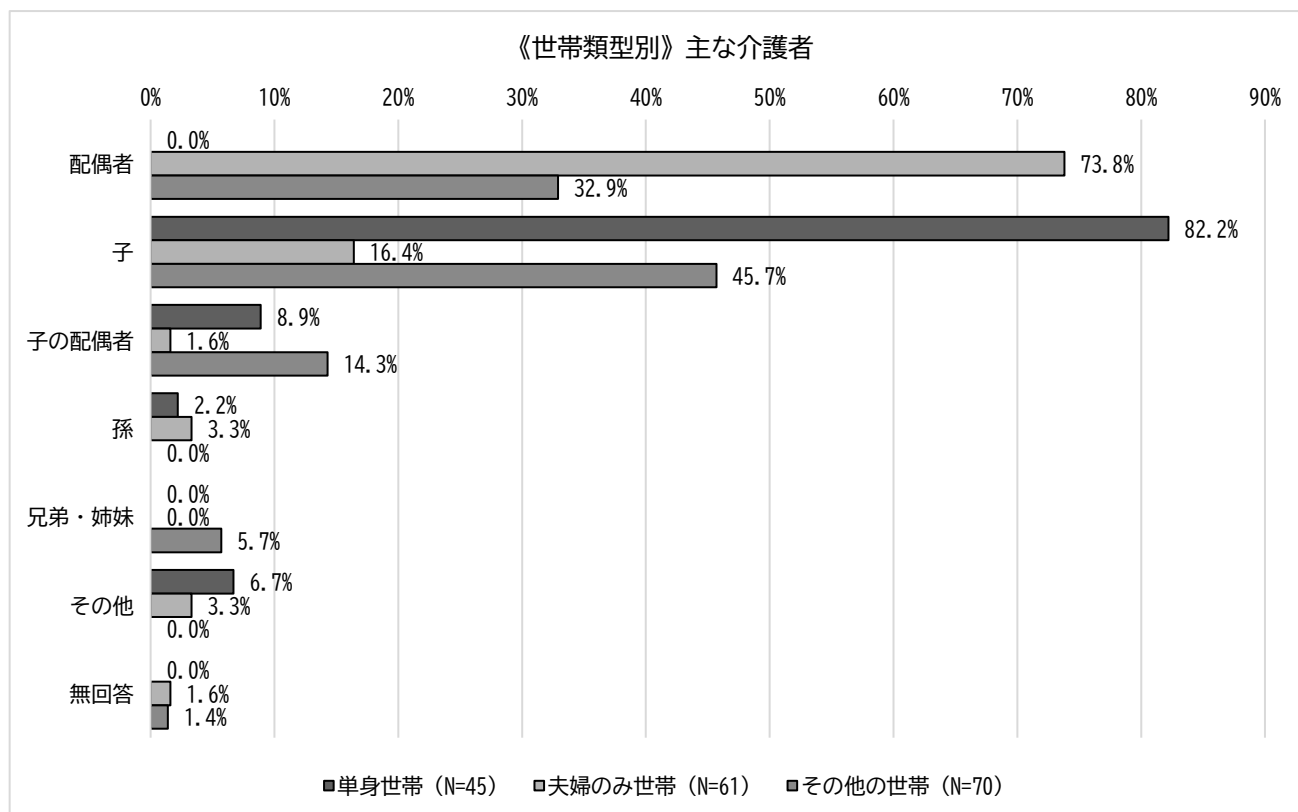
《要介護度別》

「配偶者」は「要介護 3～5」が 61.5%で最も多く、「要介護 1～2」が 22.7%で最も少なく、38.8 ポイントの差があり、「子」は「要介護 1～2」が 53.0%で最も多く、「要介護 3～5」が 28.2%で最も少なく、24.8 ポイントの差があり、「子の配偶者」は「要介護 1～2」が 15.2%で最も多く、「要介護 3～5」が 5.1%で最も少なく、10.1 ポイントの差があります。



《世帯類型別》

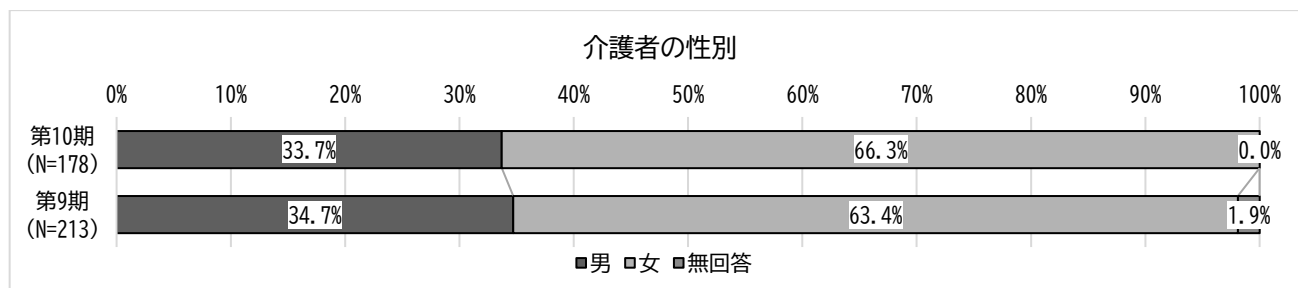
「配偶者」は「夫婦のみ世帯」が 73.8%で最も多く、「単身世帯」が 0.0%で最も少なく、73.8 ポイントの差があり、「子」は「単身世帯」が 82.2%で最も多く、「夫婦のみ世帯」が 16.4%で最も少なく、65.8 ポイントの差があり、「子の配偶者」は「その他の世帯」が 14.3%で最も多く、「夫婦のみ世帯」が 1.6%で最も少なく、12.7 ポイントの差があります。



(4) 家族介護者の性別

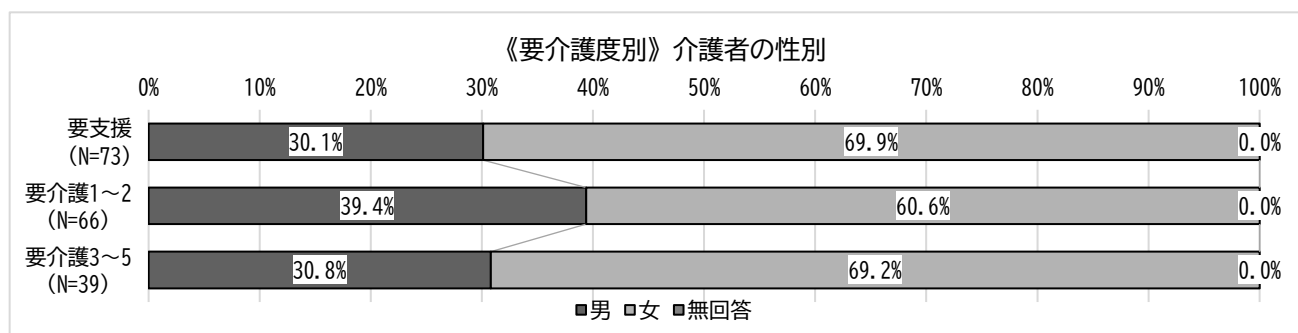
《経年変化》

女性が66.3%で最も多く、次いで男性が33.7%となっています。有意な経年変化はみられません。



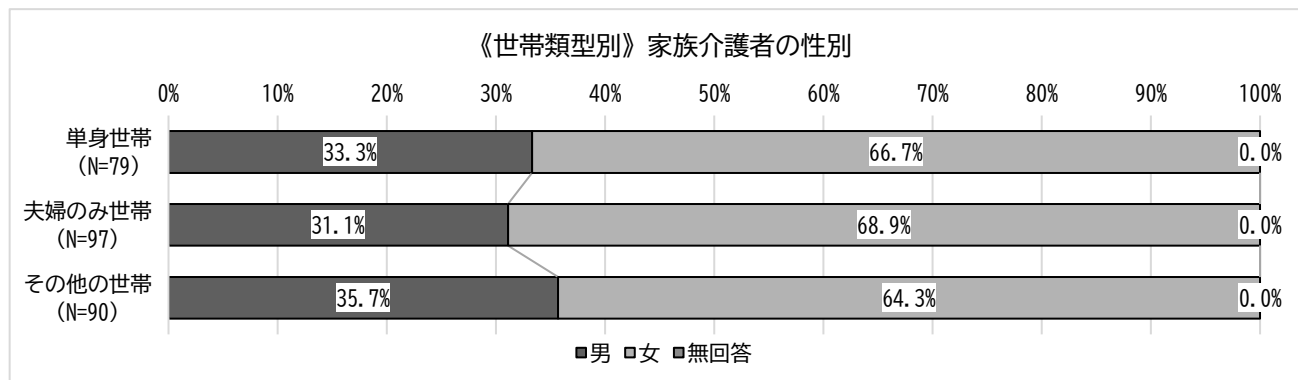
《要介護度別》

「要支援」は女性が69.9%に対し、男性は30.1%と、女性が男性を39.8ポイント上回り、「要介護1～2」は女性が60.6%に対し、男性は39.4%と、女性が男性を21.2ポイント上回り、「要介護3～5」は女性が69.2%に対し、男性は30.8%と、女性が男性を38.4ポイント上回っています。



《世帯類型別》

「単身世帯」は女性が 66.7%に対し、男性は 33.3%と、女性が男性を 33.4 ポイント上回り、「夫婦のみ世帯」は女性が 68.9%に対し、男性は 31.1%と、女性が男性を 37.8 ポイント上回り、「その他の世帯」は女性が 64.3%に対し、男性は 35.7%と、女性が男性を 28.6 ポイント上回っています。

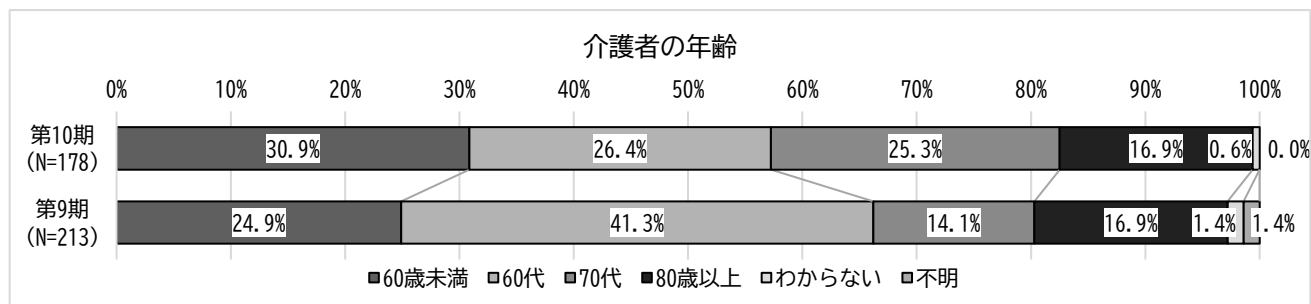


(5) 家族介護者の年齢

《経年変化》

「60 歳未満」が 30.9%でもっとも多く、次いで「60 代」が 26.4%、「70 代」が 25.3%となっています。

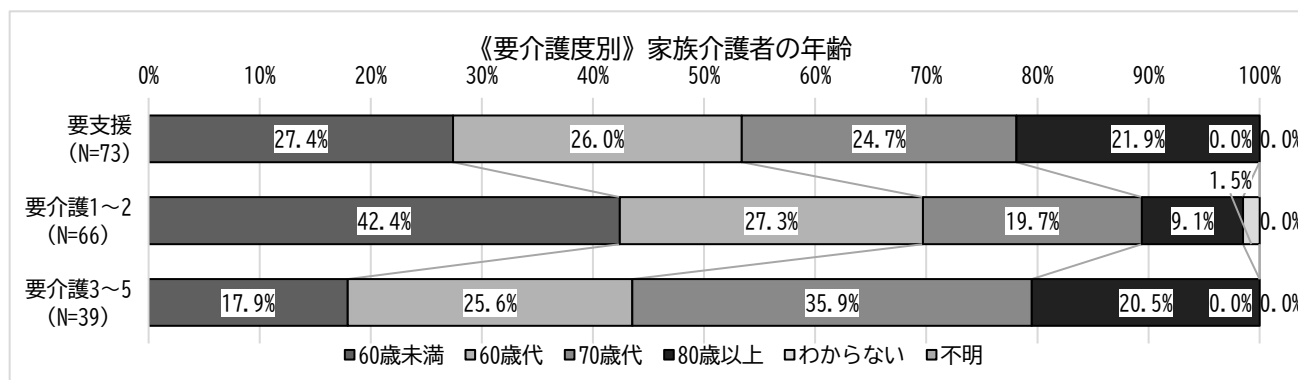
第 9 期との比較では、「60 代」が 14.9 ポイント減少し、「70 代」が 11.2 ポイント、「60 歳未満」が 6.0 ポイント増加しています。



《要介護度別》

「要支援」は「60 歳未満」が 27.4%で最も多く、次いで「60 歳代」が 26.0%、「70 歳代」が 24.7%となっており、「要介護 1～2」は「60 歳未満」が 42.4%で最も多く、次いで「60 歳代」が 27.3%、「70 歳代」が 19.7%となっており、「要介護 3～5」は「70 歳代」が 35.9%で最も多く、次いで「60 歳代」が 25.6%、「80 歳以上」が 20.5%となっています。

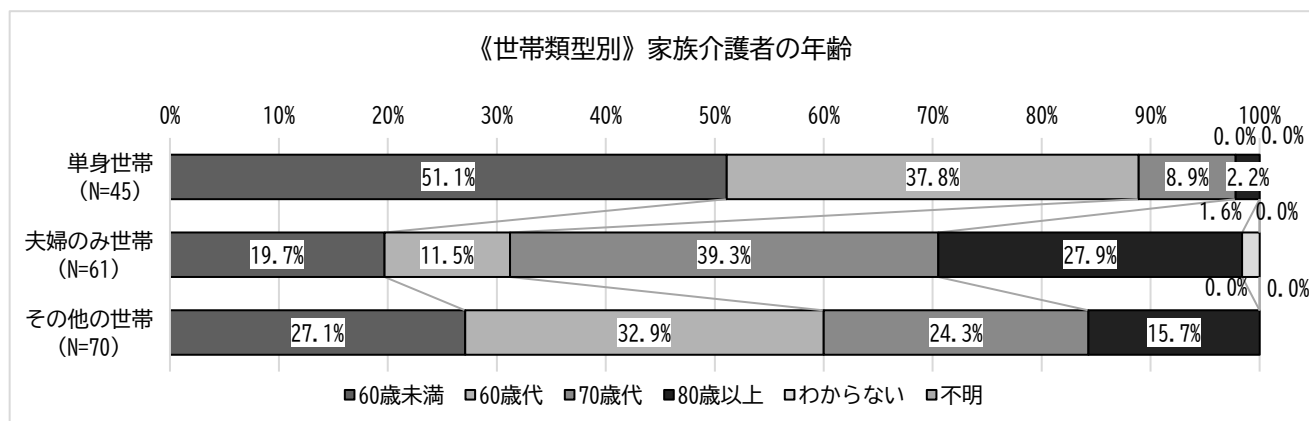
以上のように、「要介護 3～5」がもっとも家族介護の高齢化が進んでいます。



《世帯類型別》

「単身世帯」は「60 歳未満」が 51.1%で最も多く、次いで「60 歳代」が 37.8%、「70 歳代」が 8.9%となっており、「夫婦のみ世帯」は「70 歳代」が 39.3%で最も多く、次いで「80 歳以上」が 27.9%、「60 歳未満」が 19.7%となっており、「その他の世帯」は「60 歳代」が 32.9%で最も多く、次いで「60 歳未満」が 27.1%、「70 歳代」が 24.3%、「80 歳以上」が 15.7%となっています。

以上のように、「夫婦のみ世帯」が最も家族介護者の高齢化が進んでおり、老々介護の実態がうかがえます。

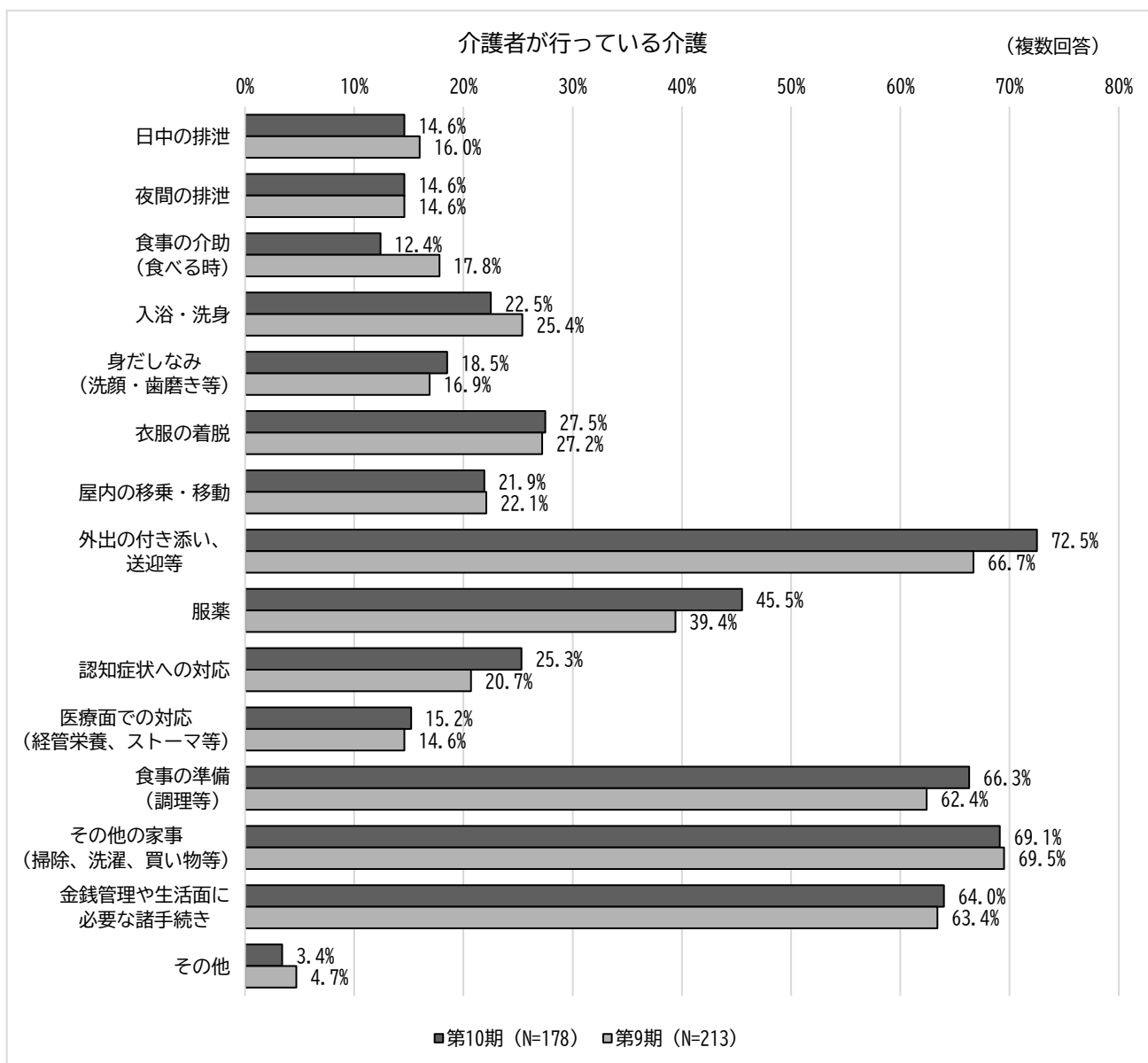


(6) 家族介護者が行っている介護

《経年変化》

「外出の付き添い、送迎等」が72.5%で最も多く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が69.1%、「食事の準備(調理等)」が66.3%となっています。

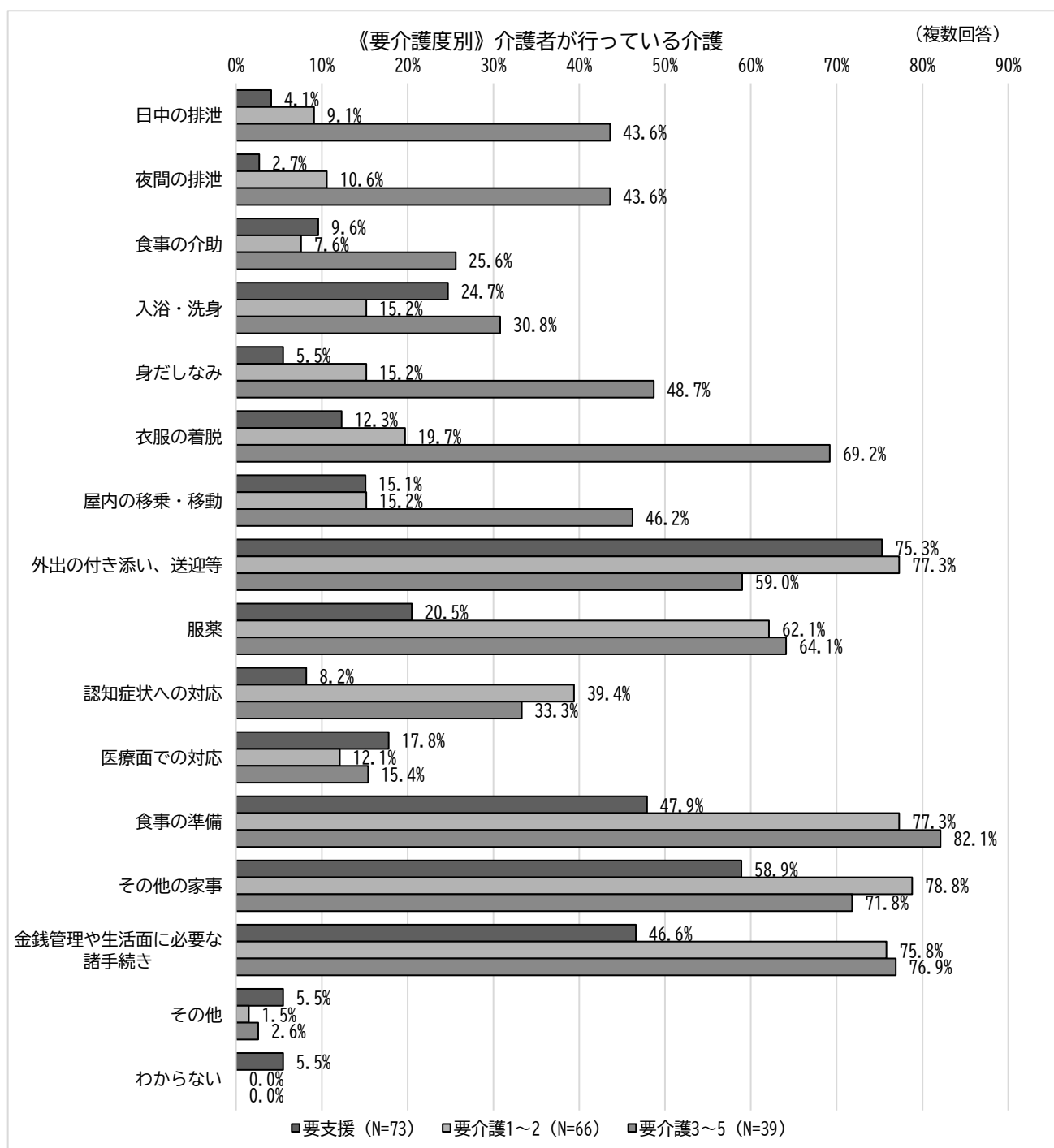
第9期との比較では、「服薬」が6.1ポイント、「外出の付き添い、送迎等」が5.8ポイント、「認知症状への対応」が4.6ポイント、「食事の準備(調理等)」が3.9ポイント増加し、「食事の介助(食べる時)」が5.4ポイント減少しています。



《要介護度別》

「要支援」は「外出の付き添い、送迎等」が75.3%で最も多く、次いで「その他の家事」が58.9%、「食事の準備」が47.9%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が46.6%となっており、「要介護1～2」は「その他の家事」が78.8%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備」が共に77.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が75.8%となっており、「要介護3～5」は「食事の準備」が82.1%で最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が76.9%、「その他の家事」が71.8%、「衣服の着脱」が69.2%となっています。

以上のように、「食事の準備」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」「衣服の着脱」「身だしなみ」「屋内の移乗・移動」「夜間の排泄」「日中の排泄」は要介護度が重度になるほど、多くなる傾向を示しています。

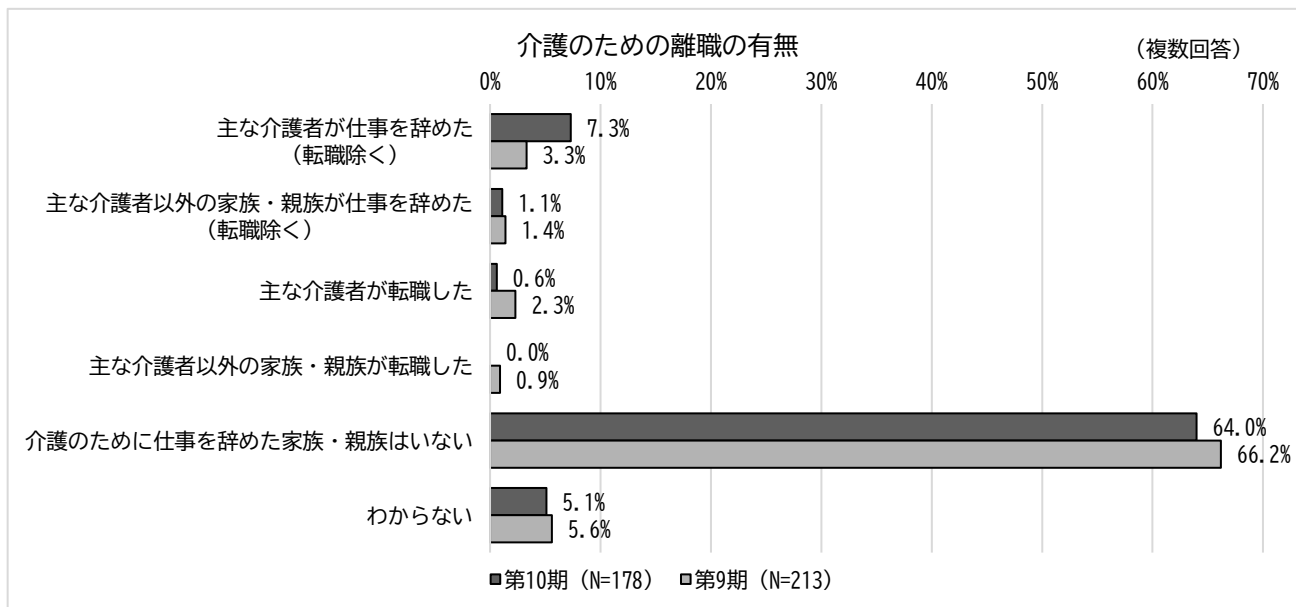


(7) 介護のための離職の有無

《経年変化》

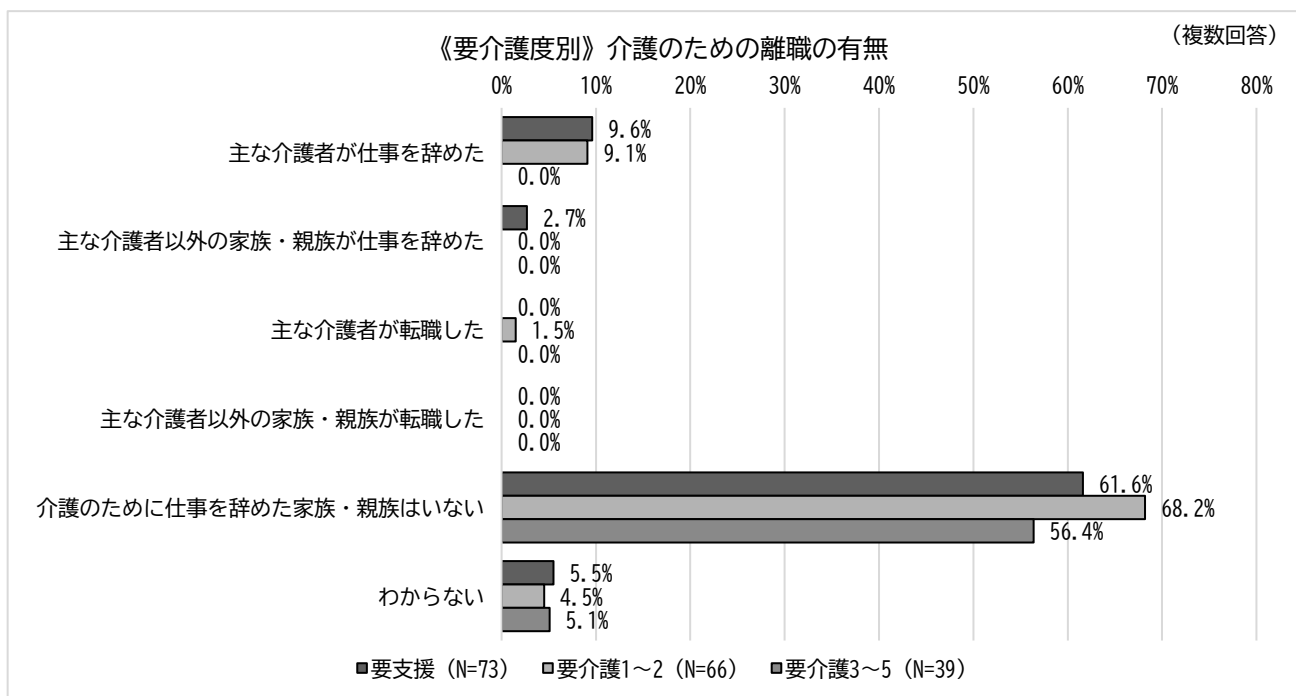
「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 64.0%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が 7.3%、「わからない」が 5.1%となっています。

第 9 期との比較では、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が 4.0 ポイント増加しています。



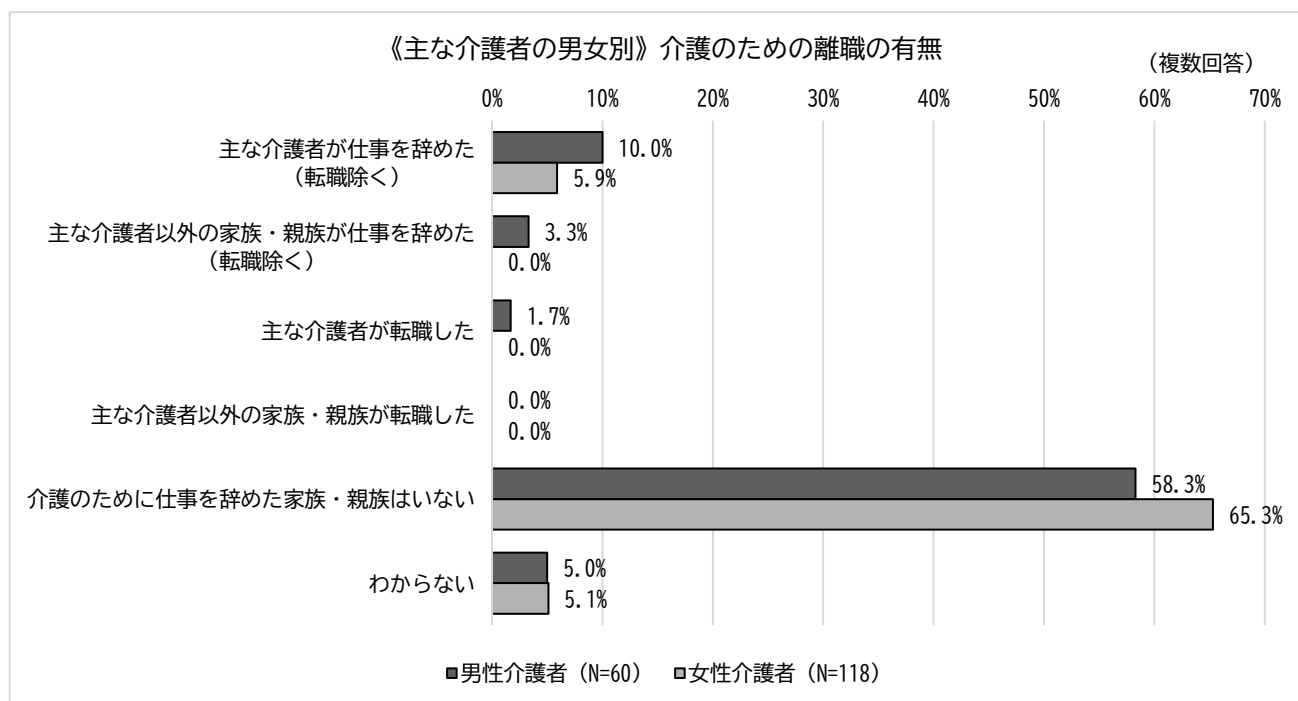
《要介護度別》

「主な介護者が仕事を辞めた」は「要支援」が 9.6%でもっとも多く、次いで「要介護 1～2」が 9.1%、「要介護 3～5」が 0.0%となっており、「要支援」がもっとも介護離職が多いことが伺えます。



《主な介護者の男女別》

「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」は「男性介護者」が 10.0%に対し、「女性介護者」が 5.9%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 4.1 ポイント上回っています。

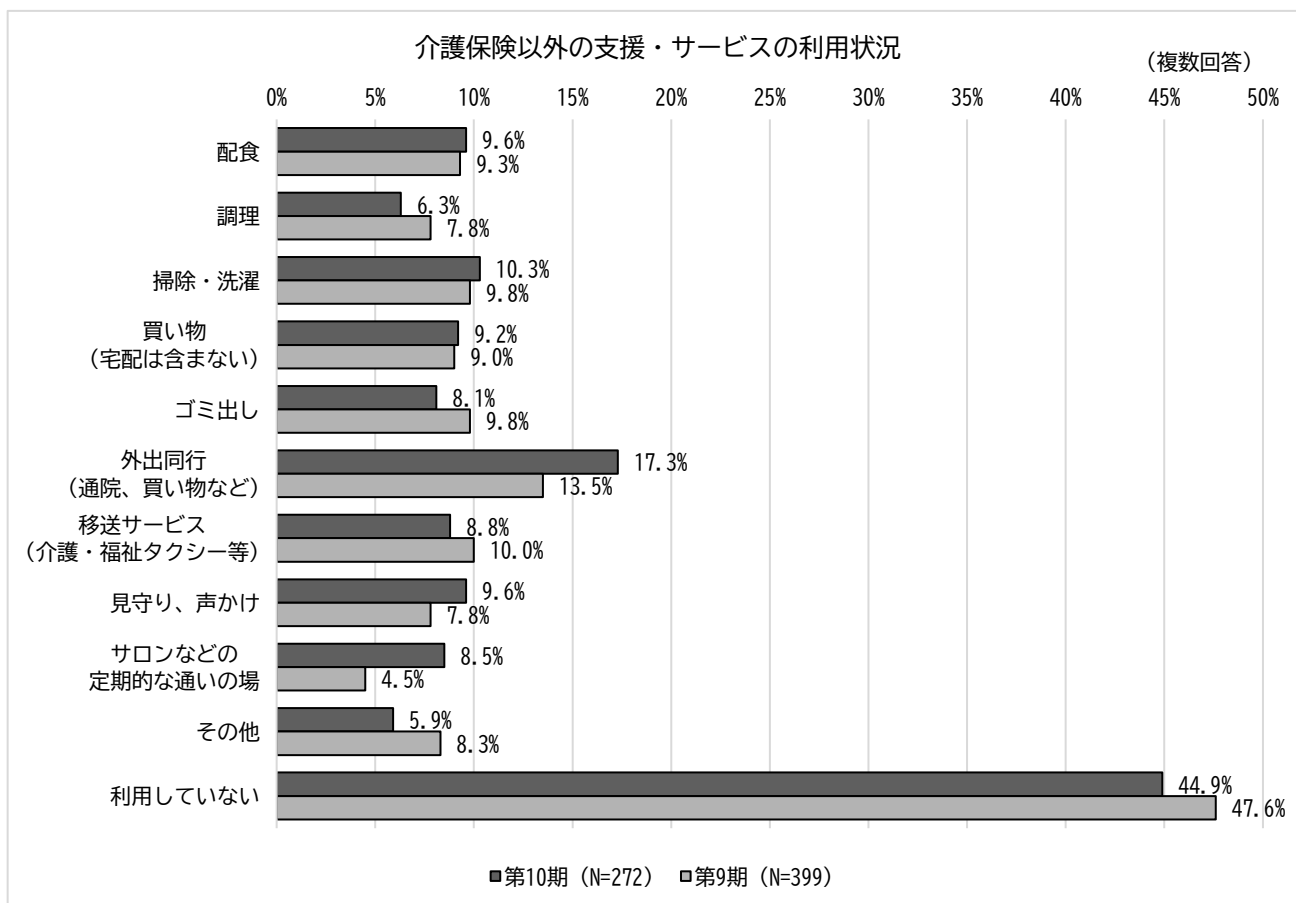


(8) 介護保険以外の支援・サービスの利用状況

《経年変化》

「外出同行(通院、買い物など)」が 17.3%で最も多く、次いで「掃除・洗濯」が 10.3%、「配食」と「見守り、声かけ」がともに 9.6%となっており、「利用していない」は 44.9%となっています。

第 9 期との比較では、「サロンなどの定期的な通いの場」は第 9 期の 4.5%から第 10 期は 8.5%へと、4.0 ポイント増加し、「外出同行(通院、買い物など)」は第 9 期の 13.5%から第 10 期は 17.3%へと、3.8 ポイント増加しています。

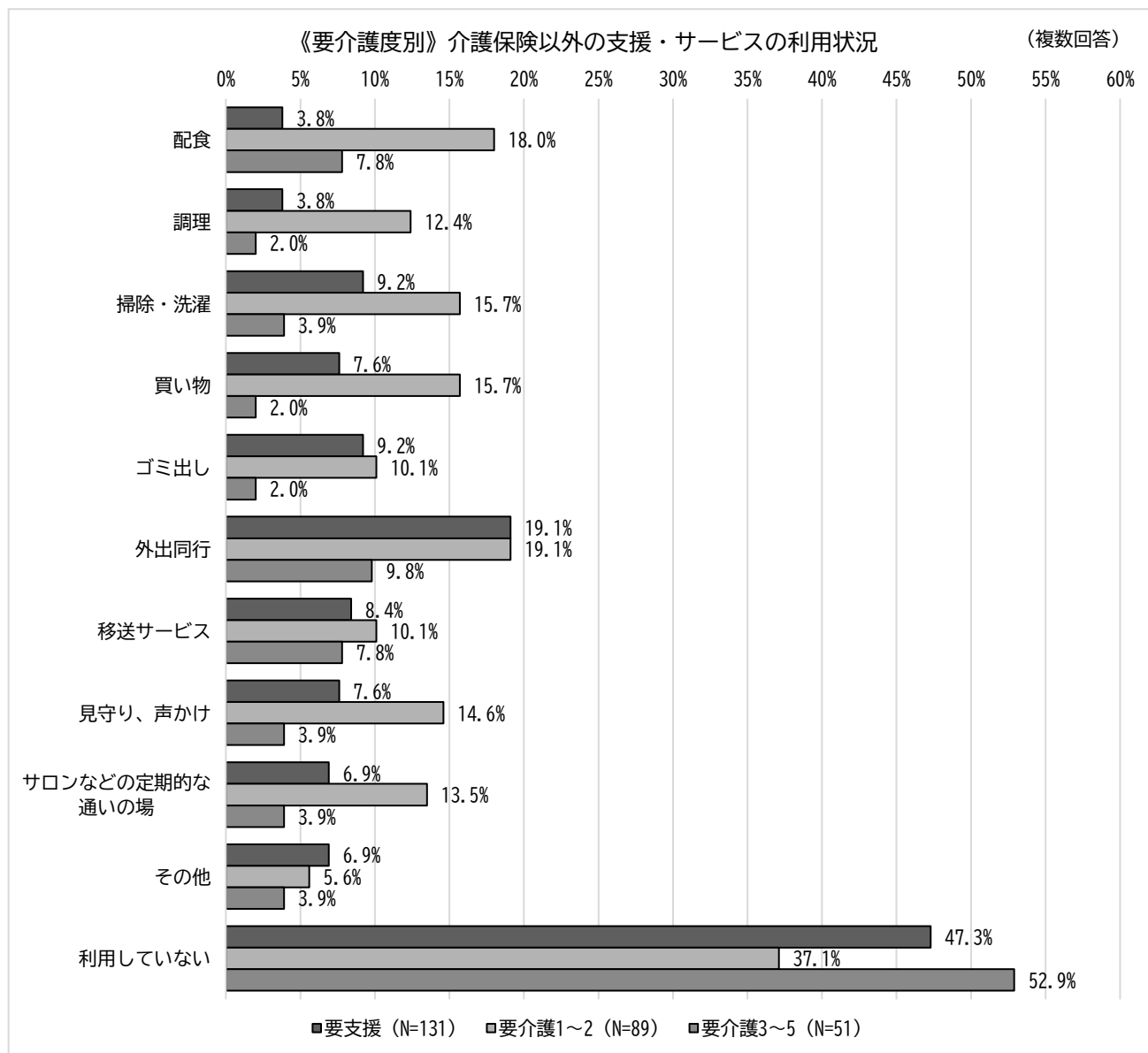


《要介護度別》

「要支援」は「外出同行」が19.1%で最も多く、次いで「掃除・洗濯」「ゴミ出し」が共に9.2%、「移送サービス」が8.4%となっており、「要介護1～2」は「外出同行」が19.1%で最も多く、次いで「配食」が18.0%、「掃除・洗濯」「買い物」が共に15.7%となっており、「要介護3～5」は「外出同行」が9.8%で最も多く、次いで「配食」「移送サービス」が共に7.8%となっています。

また、「利用していない」は「要支援」が47.3%、「要介護1～2」が37.1%、「要介護3～5」が52.9%となっています。

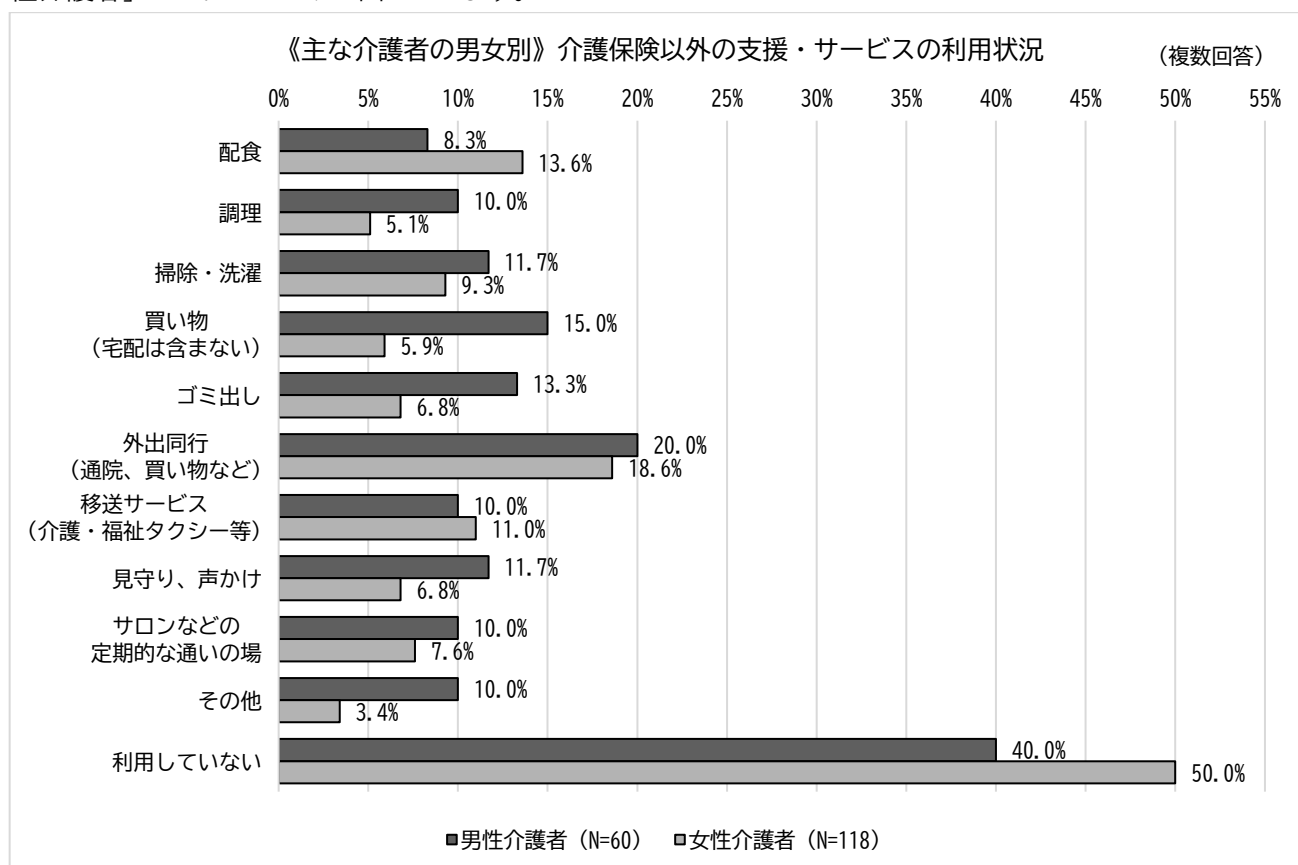
以上のように、介護保険以外の支援・サービスの利用は「要介護1～2」が最も多い傾向を示しています。



《主な介護者の男女別》

「買い物(宅配は含まない)」は「男性介護者」が 15.0%に対し、「女性介護者」が 5.9%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 9.1 ポイント上回っており、「ゴミ出し」は「男性介護者」が 13.3%に対し、「女性介護者」が 6.8%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 6.5 ポイント上回っており、「配食」は「女性介護者」が 13.6%に対し、「男性介護者」が 8.3%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 5.3 ポイント上回っています。

また、「利用していない」は「女性介護者」が 50.0%に対し、「男性介護者」は 40.0%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 10.0 ポイント上回っています。

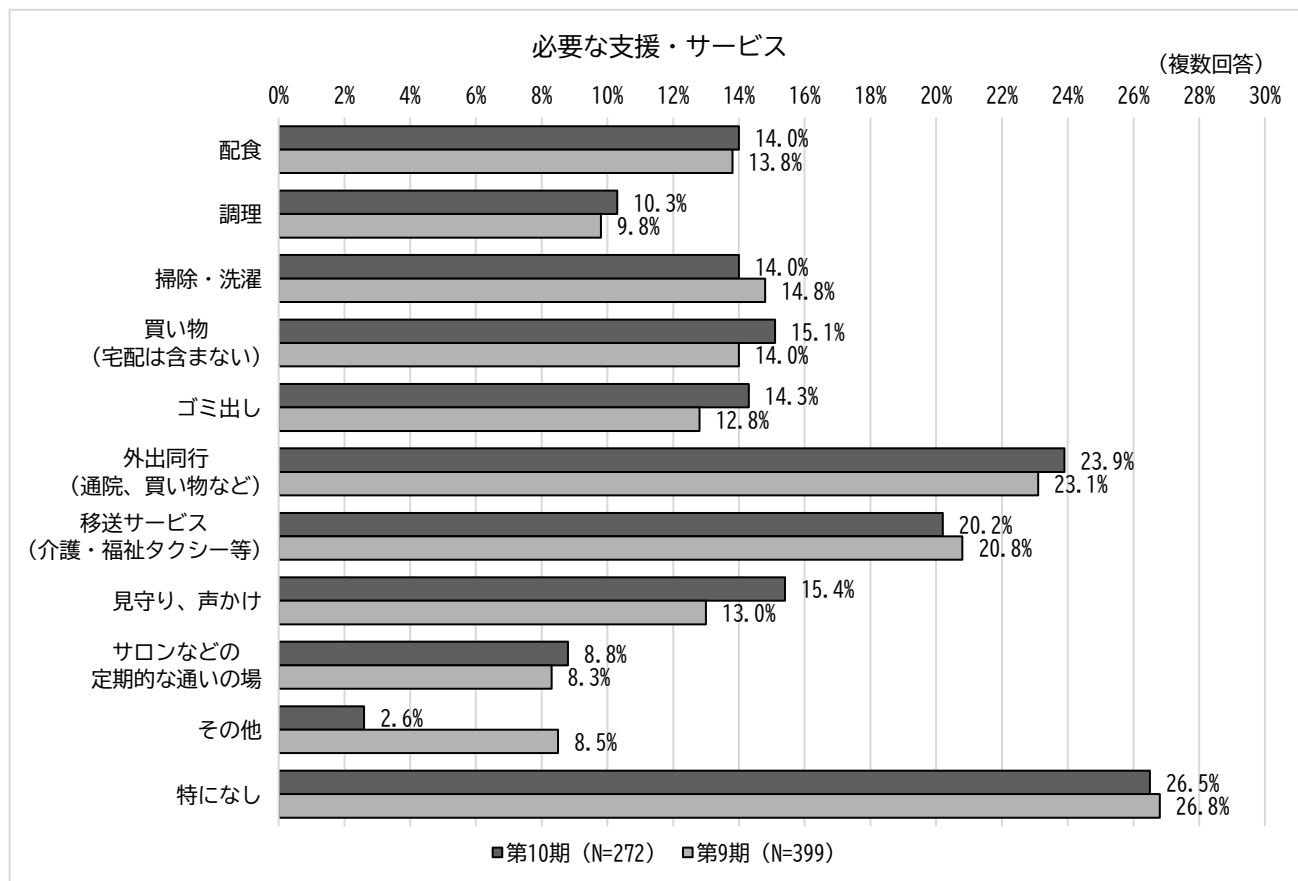


(9) 必要な支援サービス

《経年変化》

「外出同行(通院、買い物など)」が 23.9%で最も多く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が 20.2%、「見守り、声かけ」が 15.4%となっています。

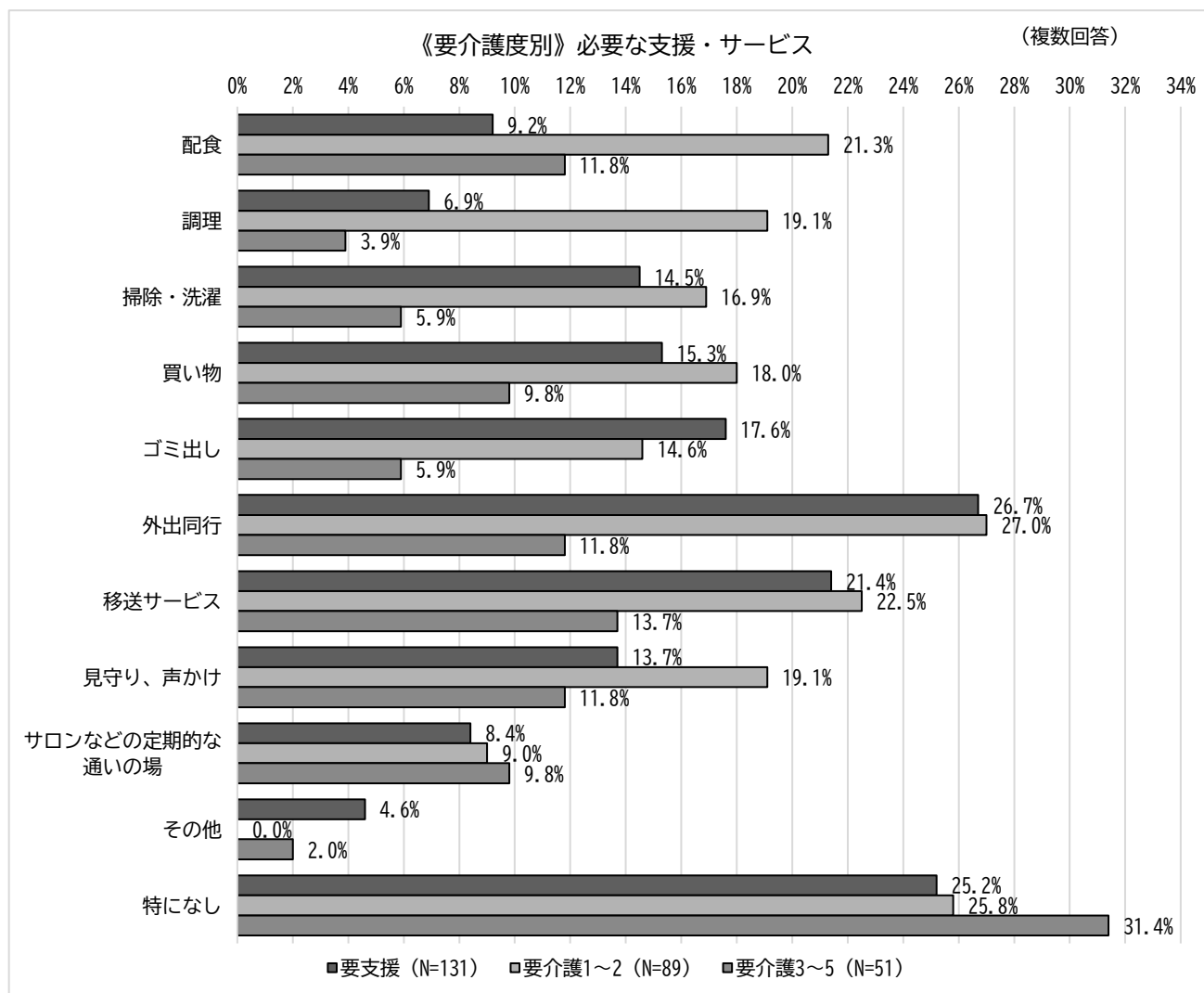
有意な経年変化はみられません。



《要介護度別》

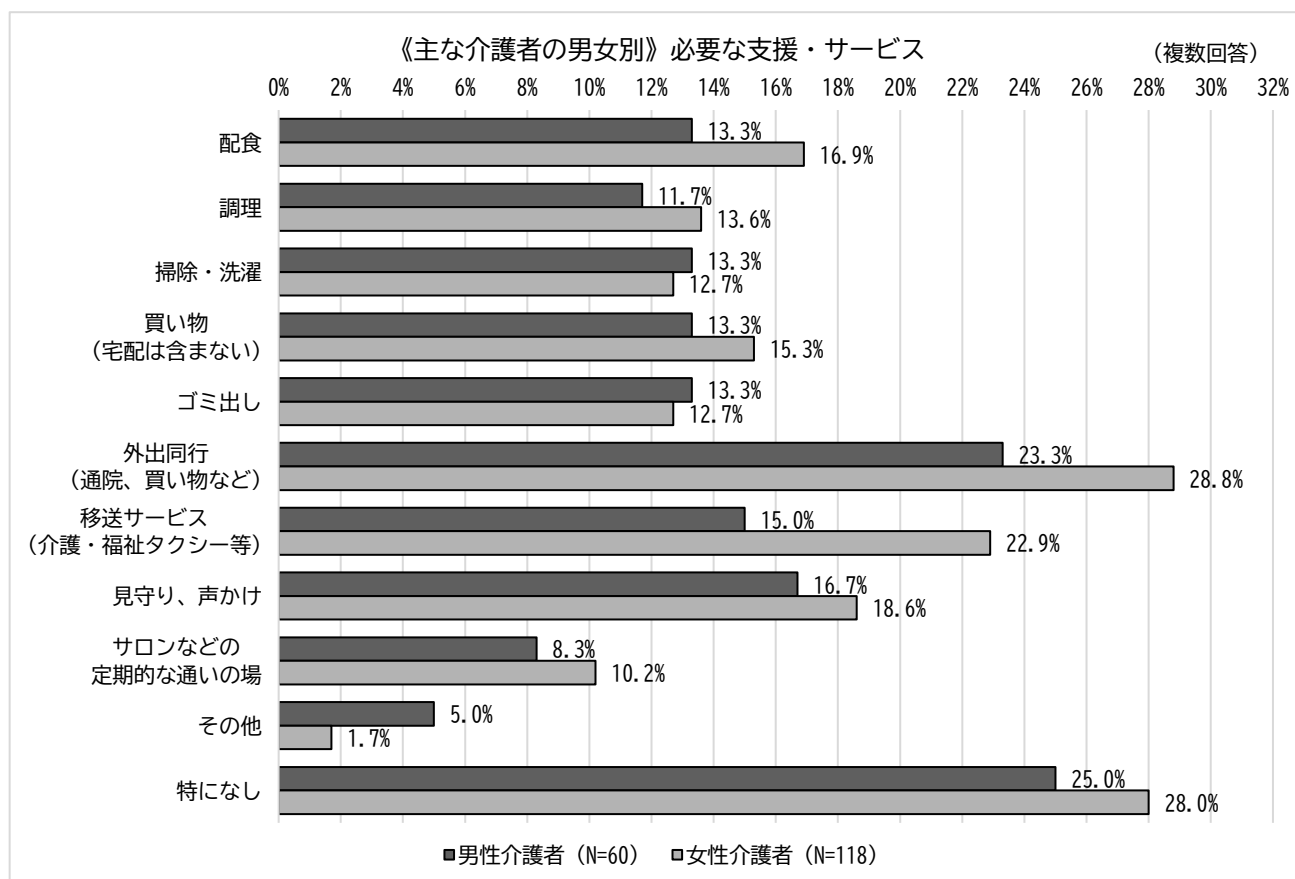
「要支援」は「外出同行」が 26.7%で最も多く、次いで「移送サービス」が 21.4%、「ゴミ出し」が 17.6%となっており、「要介護1～2」は「外出同行」が 27.0%で最も多く、次いで「移送サービス」が 22.5%、「配食」が 21.3%となっており、「要介護 3～5」は「移送サービス」が 13.7%でもっとも多く、次いで「外出同行」「配食」「見守り、声かけ」がいずれも 11.8%となっています。

以上のように、支援・サービスのニーズは「要介護 1～2」が高い傾向を示しています。



《主な介護者の男女別》

「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」は「女性介護者」が 22.9%に対し、「男性介護者」が 15.0%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 7.9 ポイント上回っており、「外出同行(通院、買い物など)」は「女性介護者」が 28.8%に対し、「男性介護者」が 23.3%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 5.5 ポイント上回っており、「配食」は「女性介護者」が 16.9%に対し、「男性介護者」が 13.3%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 3.6 ポイント上回っています。

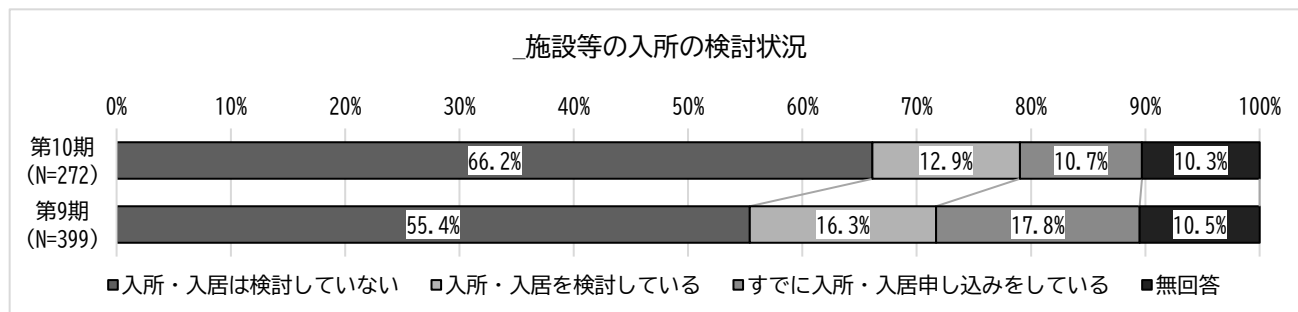


(10) 施設等の入所の検討状況

《経年変化》

「入所・入居は検討していない」が 66.2%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が 12.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 10.7%となっています。

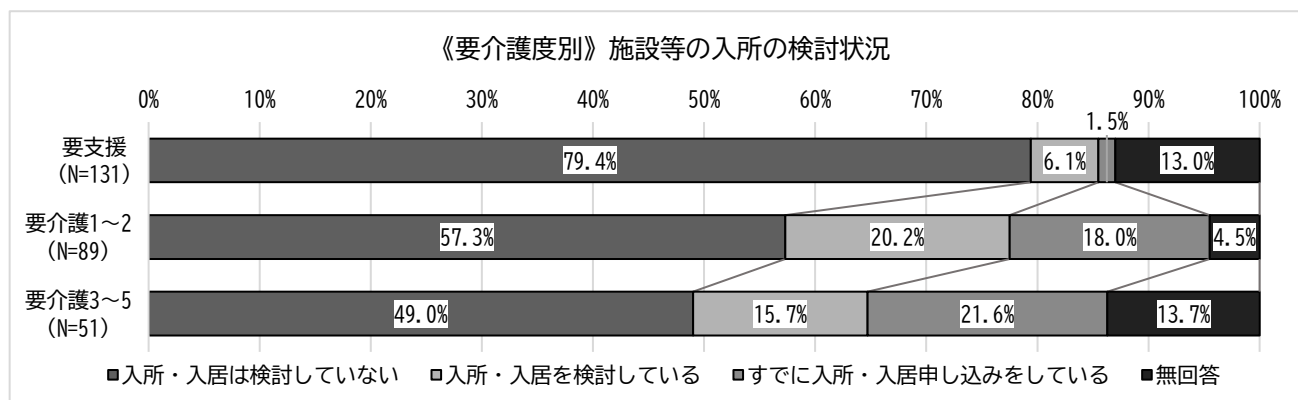
第 9 期との比較では、「入所・入居は検討していない」が 10.8 ポイント増加し、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 7.1 ポイント、「入所・入居を検討している」が 3.4 ポイント減少しています。



《要介護度別》

「要支援」は「入所・入居は検討していない」が 79.4%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が 6.1%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 1.5%となっており、「要介護 1～2」は「入所・入居は検討していない」が 57.3%、「入所・入居を検討している」が 20.2%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 18.0%となっており、「要介護 3～5」は「入所・入居は検討していない」が 49.0%で最も多く、次いで「すでに入所・入居申し込みをしている」が 21.6%、「入所・入居を検討している」が 15.7%となっています。

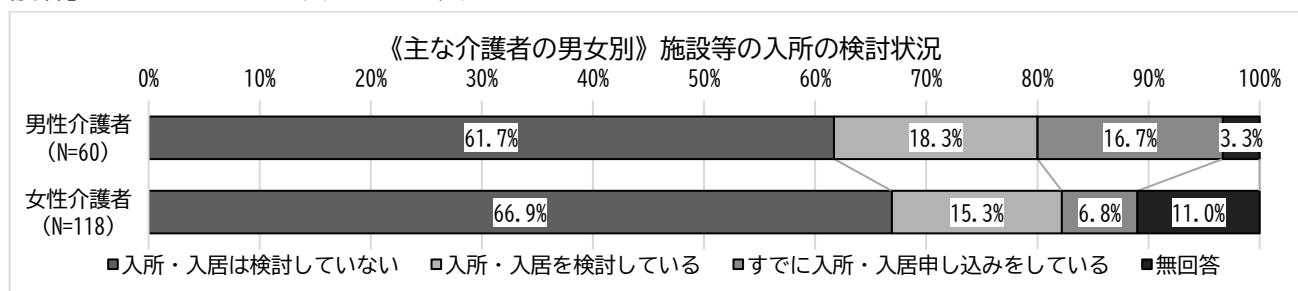
以上のように、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた入所意向があるとされる高齢者は要介護 1 以上の4割近くに達しています。



《主な介護者の男女別》

「すでに入所・入居申し込みをしている」は「男性介護者」が 16.7%に対し、「女性介護者」が 6.8%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 9.9 ポイント上回っており、「入所・入居は検討していない」は「女性介護者」が 66.9%に対し、「男性介護者」が 61.7%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 5.2 ポイント上回っています。

また、「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた入所意向を示している高齢者と比較すると、「男性介護者」が 35.0%に対し、「女性介護者」は 22.1%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 12.9 ポイント上回っています。

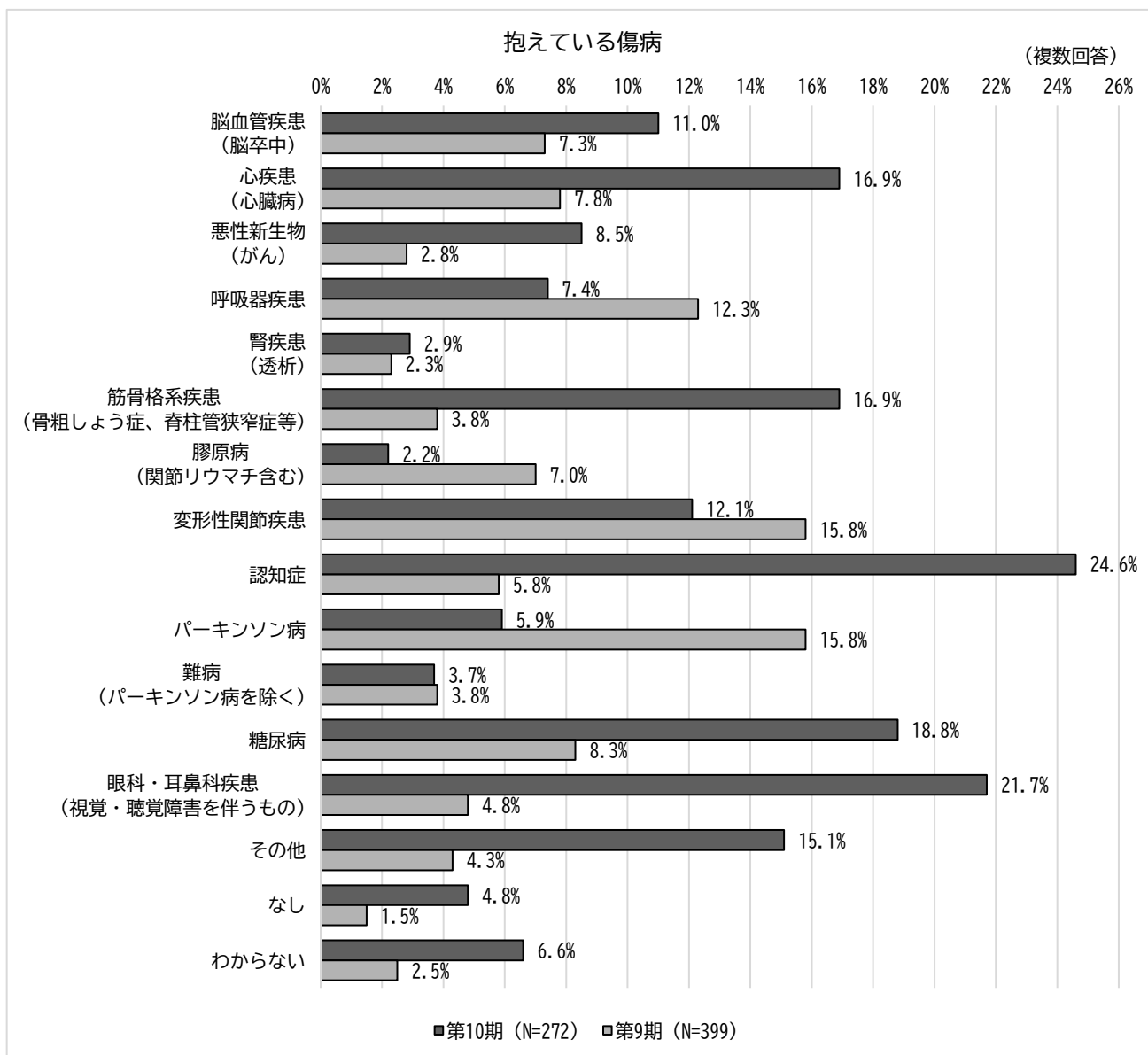


(11) 抱えている傷病

《経年変化》

「認知症」が 24.6%で最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が 21.7%、「糖尿病」が 18.8%となっています。

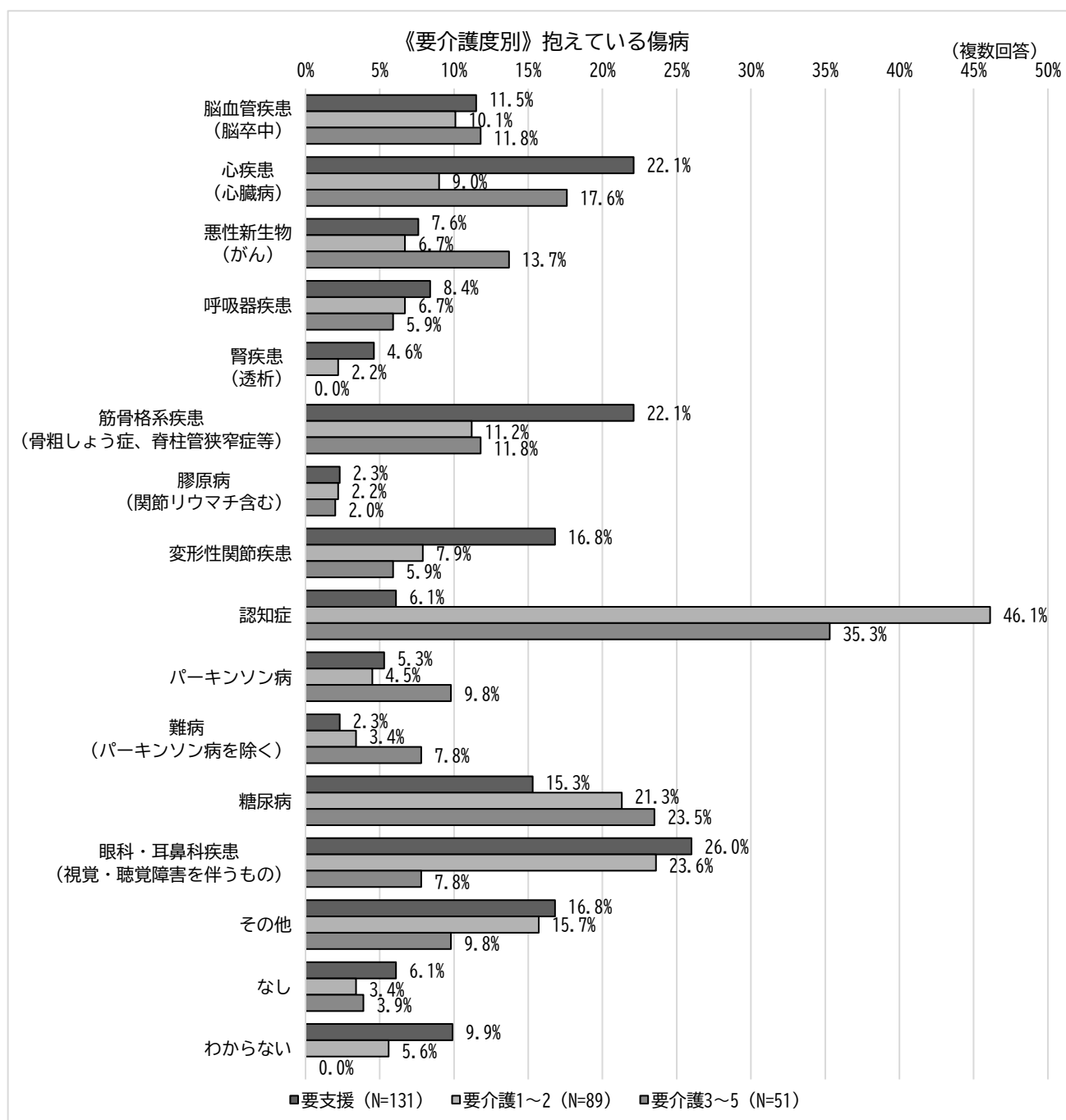
第 9 期との比較では、「認知症」が 18.8 ポイント、「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が 16.9 ポイント、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が 13.1 ポイント、「糖尿病」が 10.5 ポイント、「心疾患(心臓病)」が 9.1 ポイント増加し、「パーキンソン病」が 9.9 ポイント減少しています。



《要介護度別》

「要支援」は「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が 26.0%で最も多く、次いで「心疾患(心臓病)」 「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」が共に 22.1%となっており、「要介護 1～2」は「認知症」が46.1%で最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が23.6%、「糖尿病」が21.3%となっており、「要介護 3～5」は「認知症」が 35.3%で最も多く、次いで「糖尿病」が 23.5%、「心疾患(心臓病)」が17.6%となっています。

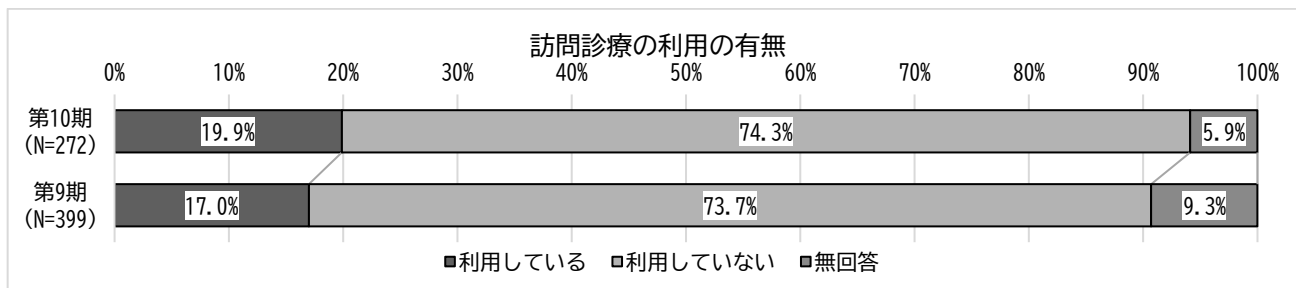
また、「要支援」は「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」 「心疾患(心臓病)」 「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」 「変形性関節疾患」が他の介護度より多く、「要介護 1～2」は「認知症」が他の介護度より多く、「糖尿病」「悪性新生物(がん)」「脳血管疾患(脳卒中)」「パーキンソン病」「難病(パーキンソン病を除く)」が他の介護度より多くなっています。



(12) 訪問診療の利用

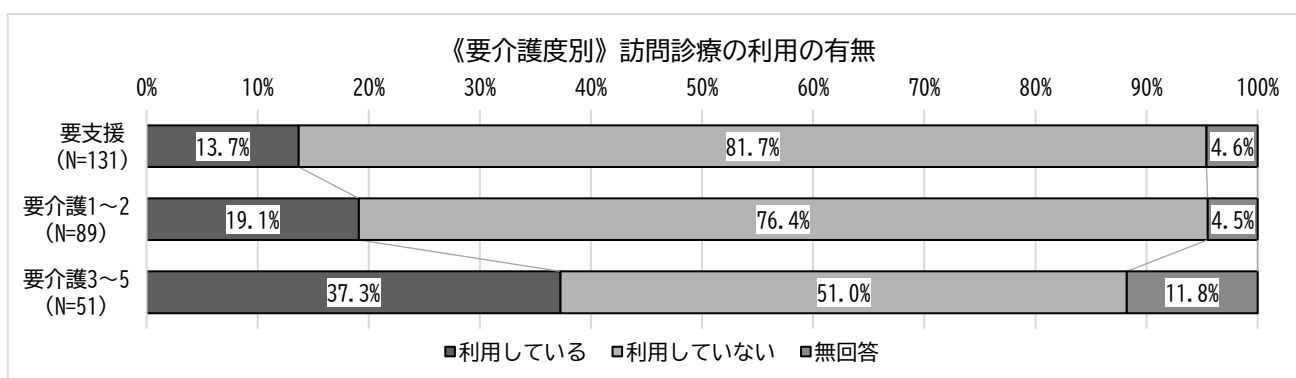
《経年変化》

「利用していない」が 74.3%に対し、「利用している」は 19.9%と、「利用していない」が「利用している」を 54.4 ポイント上回っています。また、有意な経年変化はみられません。



《要介護度別》

「利用している」は「要介護 3～5」が 37.3%でもっとも多く、次いで「要介護 1～2」が 19.1%、「要支援」が 13.7%となっています。

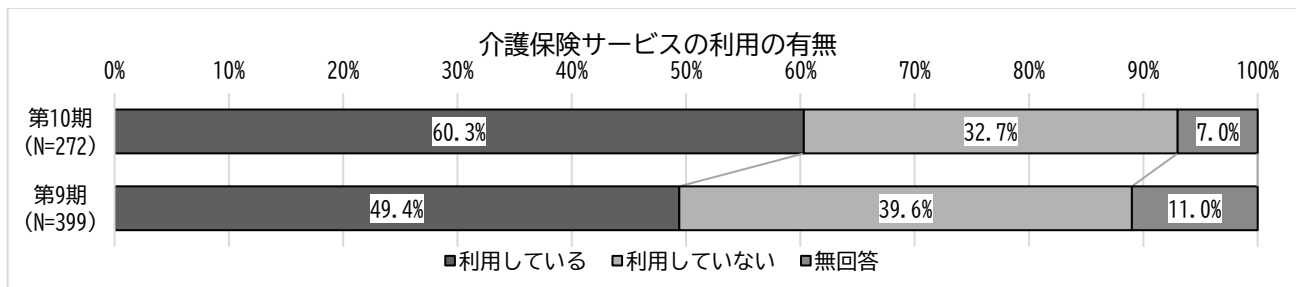


(13) 介護保険サービスの利用

《経年変化》

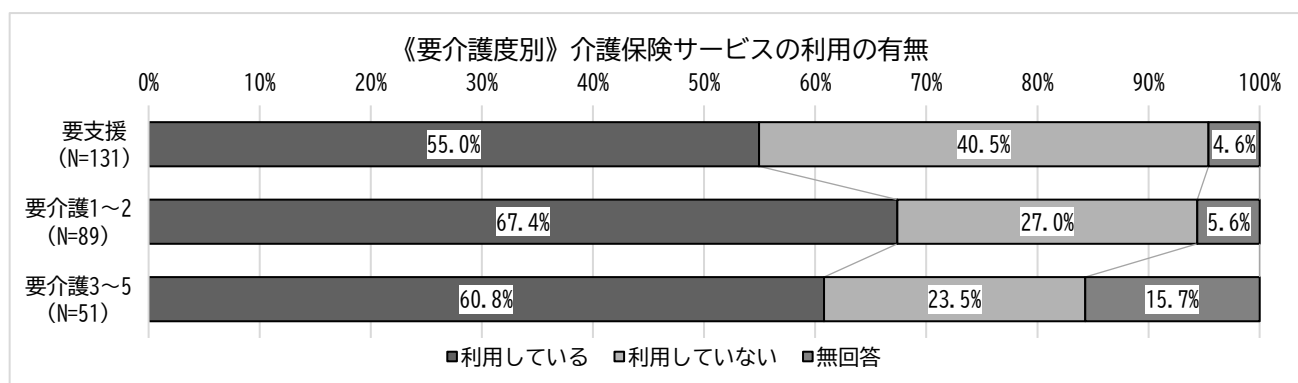
「利用している」が 60.3%、「利用していない」が 32.7%で、「利用している」が「利用していない」を 27.6 ポイント上回っています。

第 9 期との比較では、「利用している」が 10.9 ポイント増加し、「利用していない」が 6.9 ポイント減少しています。



《要介護度別》

「利用している」は「要介護 1～2」が 67.4%でもっとも多く、次いで「要介護 3～5」は 60.8%、「要支援」は 55.0%となっています。

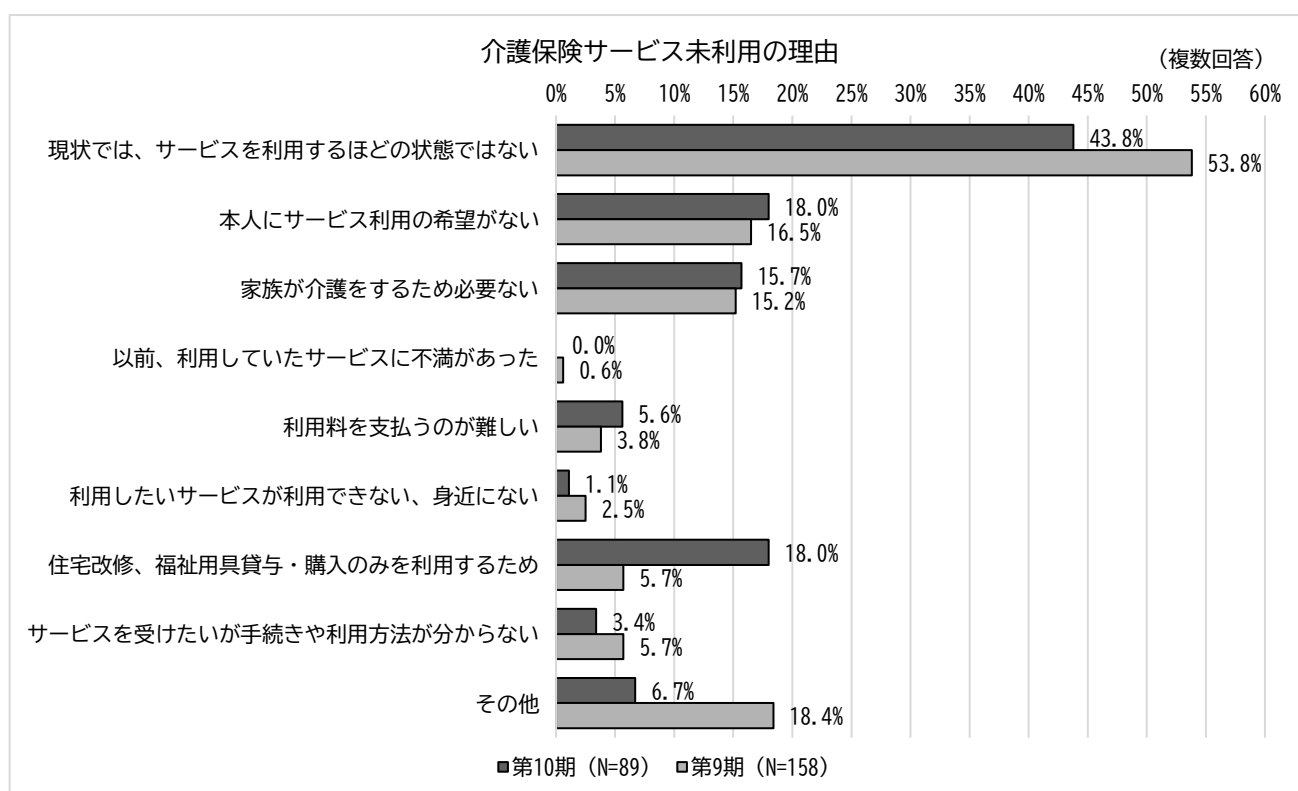


(14) 介護保険サービス未利用の理由

《経年変化》

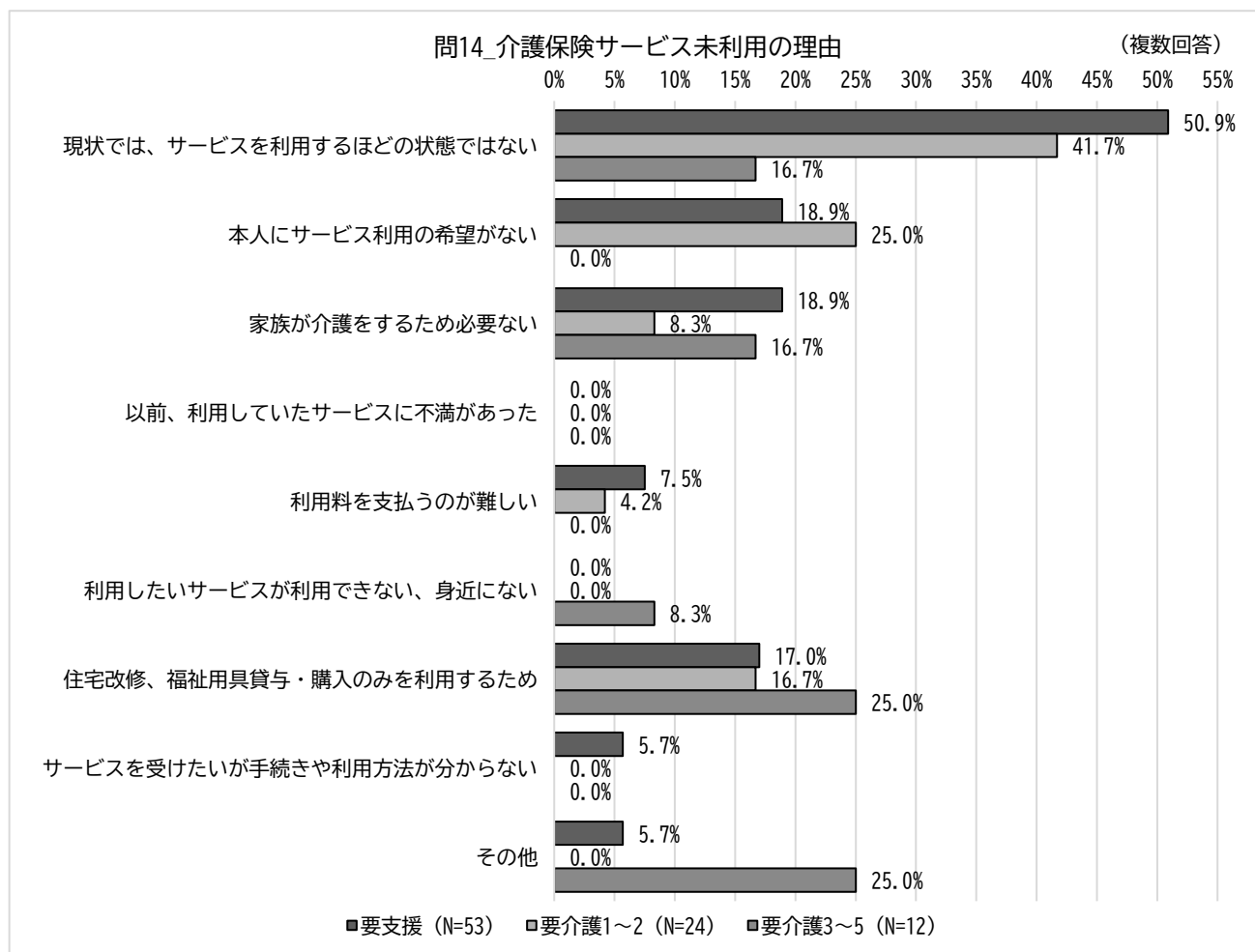
「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 43.8%でもっとも多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が共に 18.0%、「家族が介護をするため必要ない」が 15.7%となっています。

第 9 期との比較では、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が 12.3 ポイント増加し、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 10.0 ポイント減少しています。



《要介護度別》

「要支援」は「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 50.9%で最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」「家族が介護をするため必要ない」が共に 18.9%となっており、「要介護1～2」は「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 41.7%で最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 25.0%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が 16.7%となっており、「要介護3～5」は「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が 25.0%で最も多く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」「家族が介護をするため必要ない」が共に 16.7%となっています。



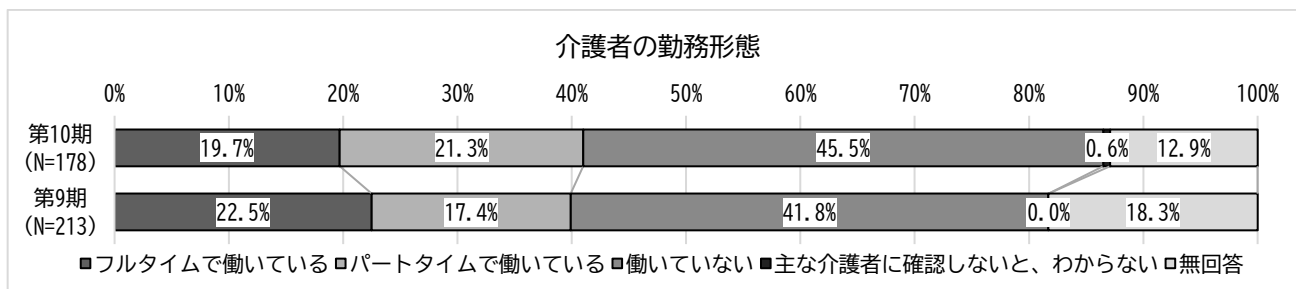
3. 家族介護者の状況について

(1) 介護者の勤務形態

《経年変化》

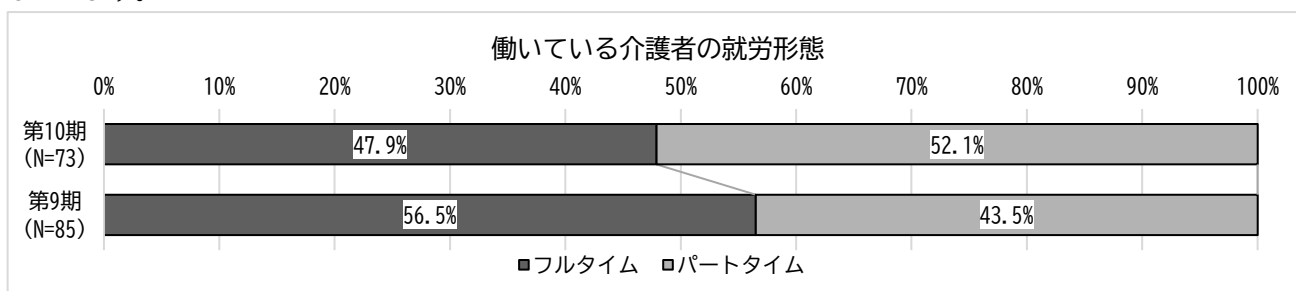
「働いていない」が 45.5%で最も多く、次いで「パートタイムで働いている」が 21.3%、「フルタイムで働いている」が 19.7%となっています。

第 9 期との比較では、「パートタイムで働いている」が 3.9 ポイント、「働いていない」が 3.7 ポイント増加しています。



また、「働いている介護者の就労形態」でみると、「パートタイム」が 52.1%、「フルタイム」が 47.9%で、「パートタイム」が「フルタイム」を 4.2 ポイント上回っています。

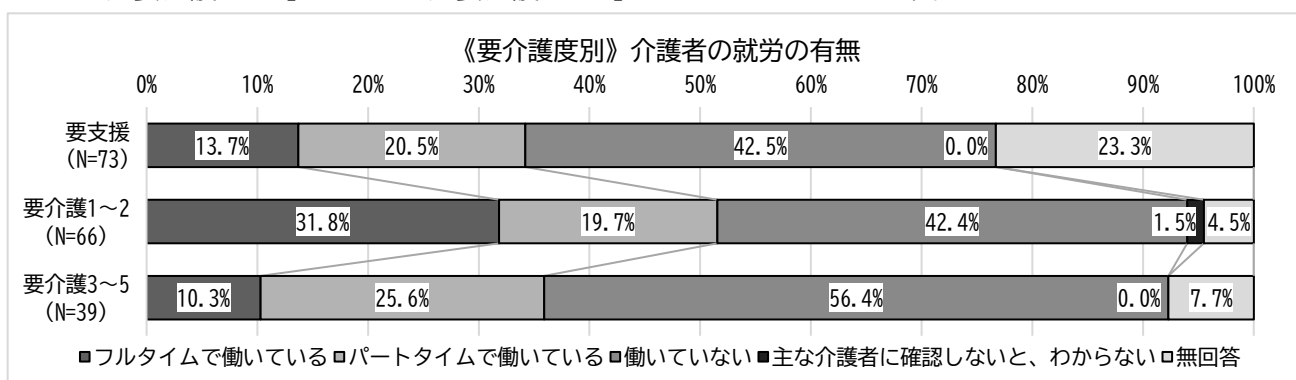
第 9 期との比較では、「パートタイムで働いている」が 8.6 ポイント増加し、「フルタイム」が 8.6 ポイント減少しています。



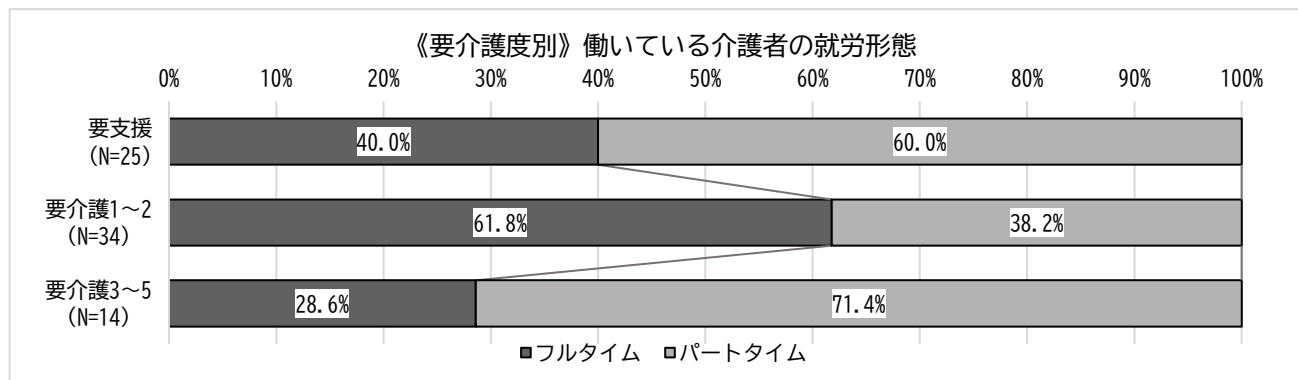
《要介護度別》

「要支援」は「フルタイムで働いている」が 13.7%、「パートタイムで働いている」が 20.5%、「働いていない」が 42.5%、「要介護1～2」は「フルタイムで働いている」が 31.8%、「パートタイムで働いている」が 19.7%、「働いていない」が 42.4%、「要介護 3～5」は「フルタイムで働いている」が 10.3%、「パートタイムで働いている」が 25.6%、「働いていない」が 56.4%となっています。

また、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた「働いている」は「要支援」が 34.2%、「要介護 1～2」が 51.5%、「要介護 3～5」が 35.9%となっています。

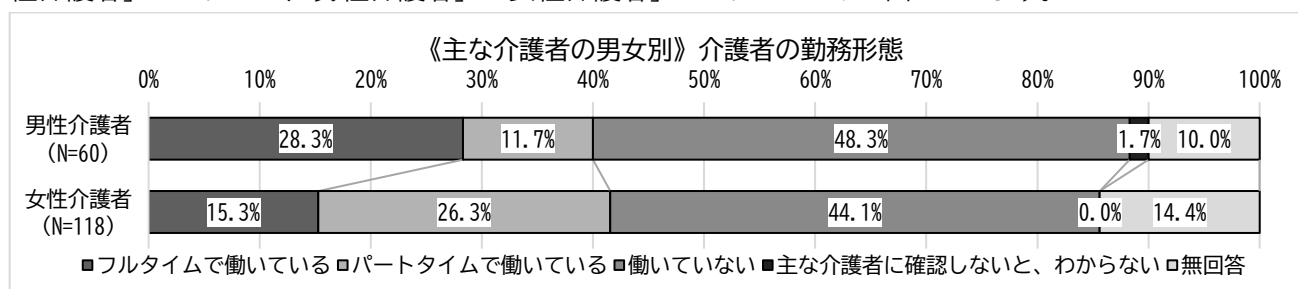


「働いている介護者の就労形態」は、「要支援」は「パートタイム」が60.0%に対し、「フルタイム」は40.0%と、「パートタイム」が「フルタイム」を20.0ポイント上回り、「要介護1～2」は「フルタイム」が61.8%に対し、「パートタイム」は38.2%と、「フルタイム」が「パートタイム」を23.6ポイント上回り、「要介護3～5」は「パートタイム」が71.4%に対し、「フルタイム」は28.6%と、「パートタイム」が「フルタイム」を42.8ポイント上回っています。

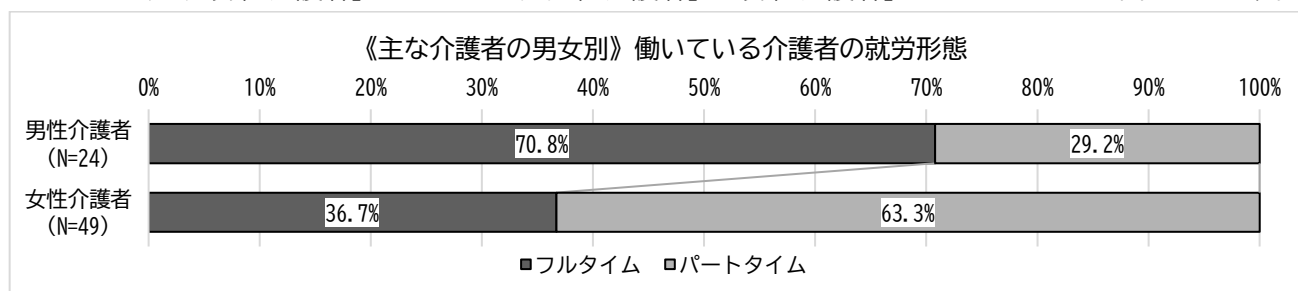


《主な介護者の男女別》

「パートタイムで働いている」は「女性介護者」が26.3%に対し、「男性介護者」が11.7%と、「女性介護者」が「男性介護者」を14.6ポイント上回っており、「フルタイムで働いている」は「男性介護者」が28.3%に対し、「女性介護者」が15.3%と、「男性介護者」が「女性介護者」を13.0ポイント上回っています。



また、「働いている介護者の就労形態」は、「フルタイム」は「男性介護者」が70.8%に対し、「女性介護者」が36.7%と、「男性介護者」が「女性介護者」を34.1ポイント上回っており、「パートタイム」は「女性介護者」が63.3%に対し、「男性介護者」が29.2%と、「女性介護者」が「男性介護者」を34.1ポイント上回っています。

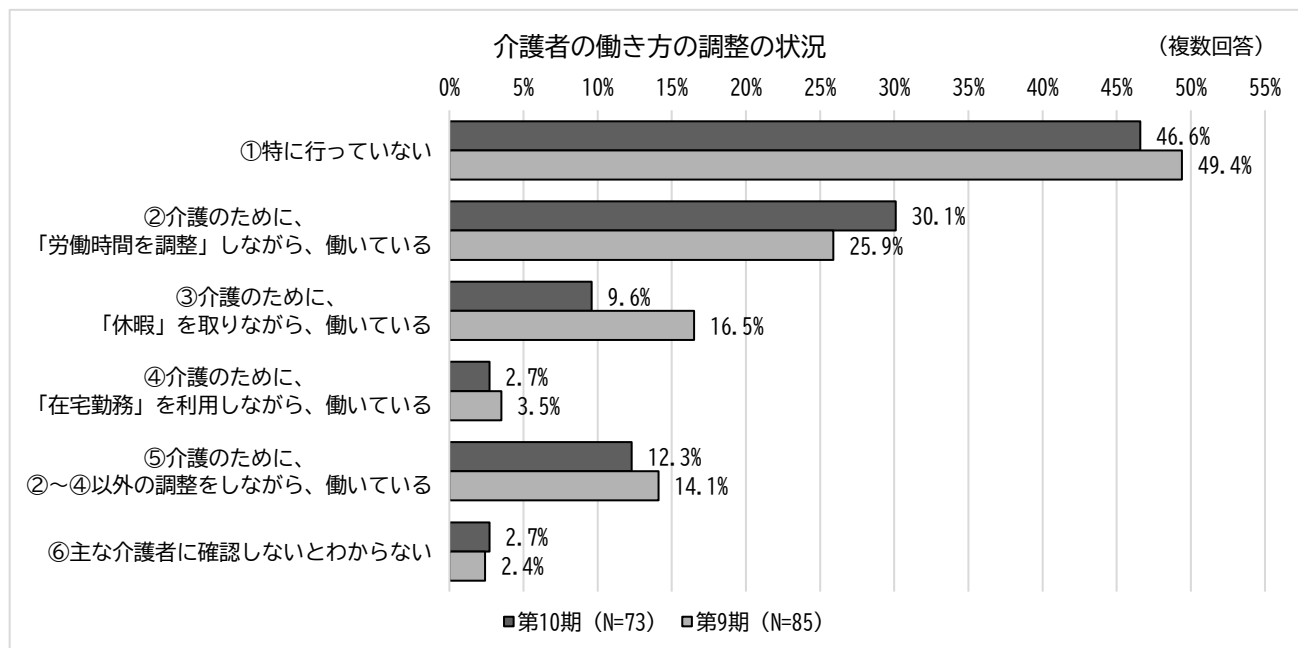


(2) 介護者の働き方の調整

《経年変化》

「①特に行っていない」が 46.6%で最も多く、次いで「②介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」が 30.1%、「⑤介護のために、②～④以外の調整をしながら、働いている」が 12.3%となっています。

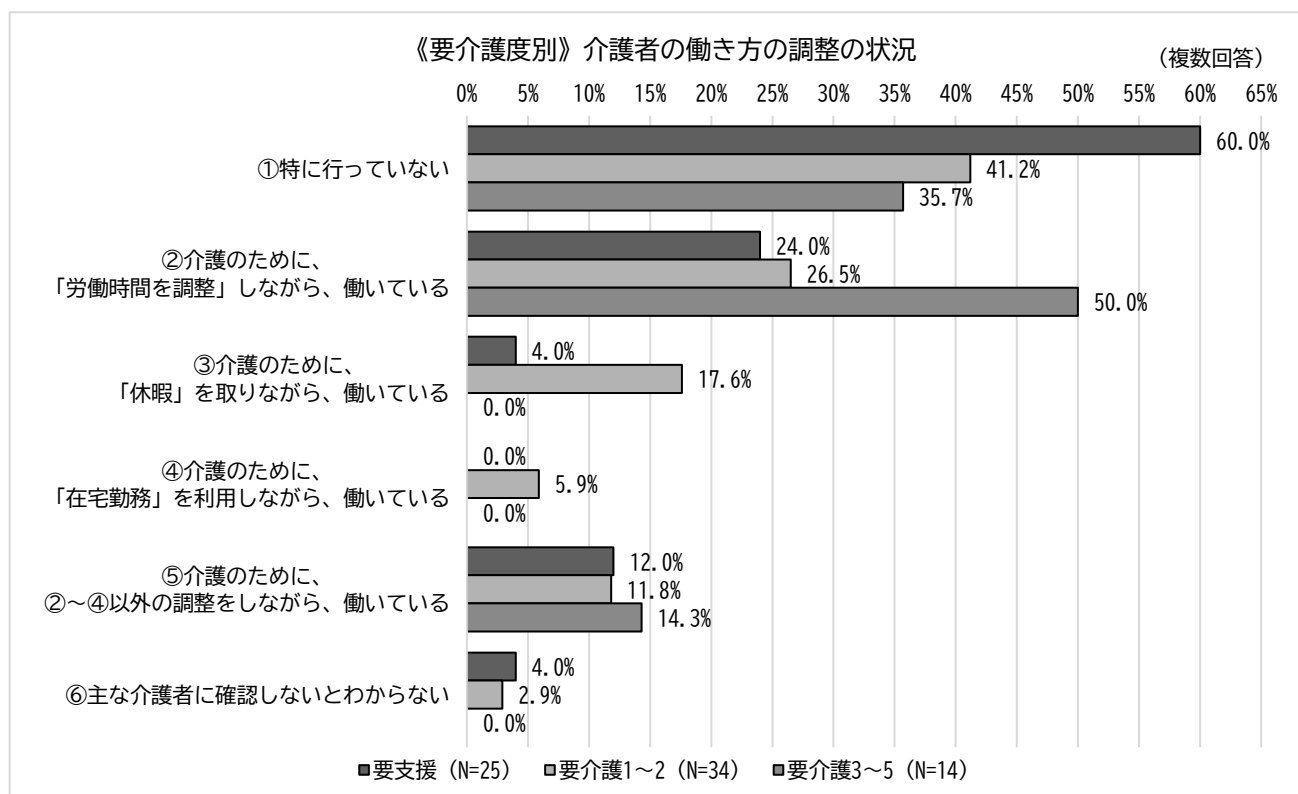
第 9 期との比較では、「③介護のために、『休暇』を取りながら、働いている」が 6.9 ポイント減少し、「②介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」が 4.2 ポイント増加しています。



《要介護度別》

「要支援」は「①特に行っていない」が 60.0%で最も多く、次いで「②介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」が 24.0%、「⑤介護のために、②～④以外の調整をしながら、働いている」が 12.0%、「要介護 1～2」は「①特に行っていない」が 41.2%で最も多く、次いで「②介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」が 26.5%、「③介護のために、「休暇」を取りながら、働いている」が 17.6%、「要介護 3～5」は「②介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている」が 50.0%、「①特に行っていない」が 35.7%、「⑤介護のために、②～④以外の調整をしながら、働いている」が 14.3%となっています。

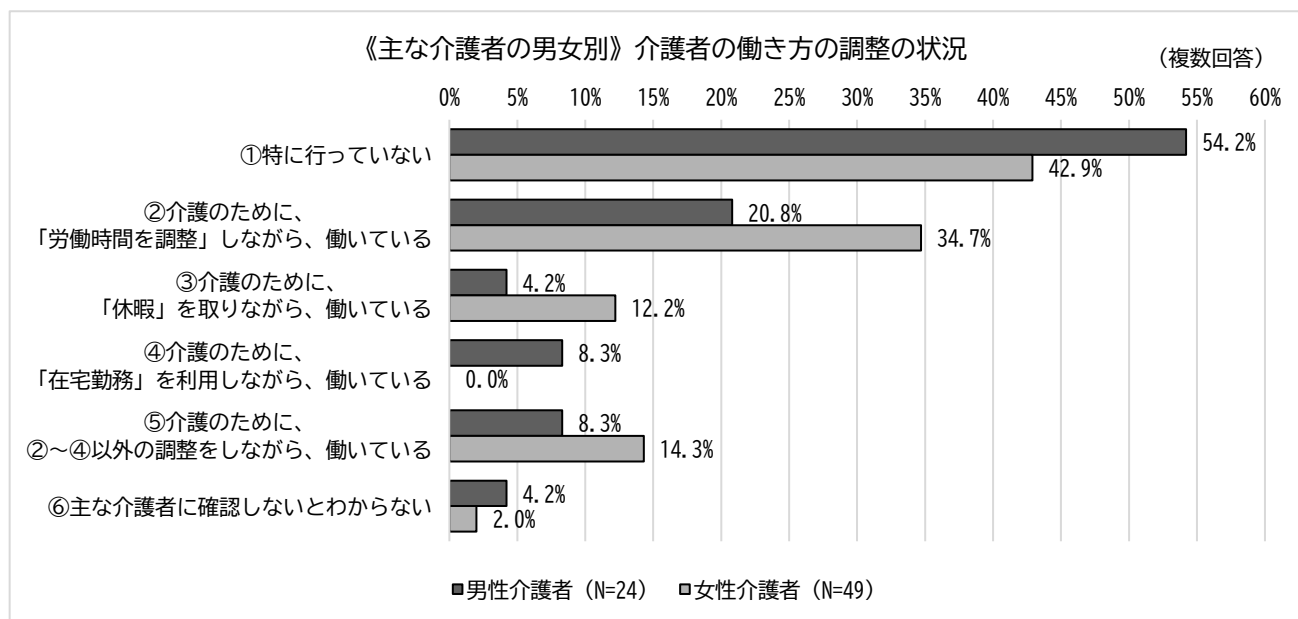
介護度が重くなるほど、工夫をしながら働いている割合が多くなる傾向を示しています。



《主な介護者の男女別》

「①特に行っていない」は「男性介護者」が 54.2%に対し、「女性介護者」が 42.9%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 11.3 ポイント上回り、「④介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」は「男性介護者」が 8.3%に対し、「女性介護者」は 0.0%と、「在宅勤務」が「男性介護者」を 8.3 ポイント上回っています。

また、「②介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」は「女性介護者」が 34.7%に対し、「男性介護者」が 20.8%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 13.9 ポイント上回っており、「③介護のために、「休暇」を取りながら、働いている」は「女性介護者」が 12.2%に対し、「男性介護者」は 4.2%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 8.0 ポイント上回り、「⑤介護のために、②～④以外の調整をしながら、働いている」は「女性介護者」が 14.3%に対し、「男性介護者」は 8.3%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 6.0 ポイント上回っています。

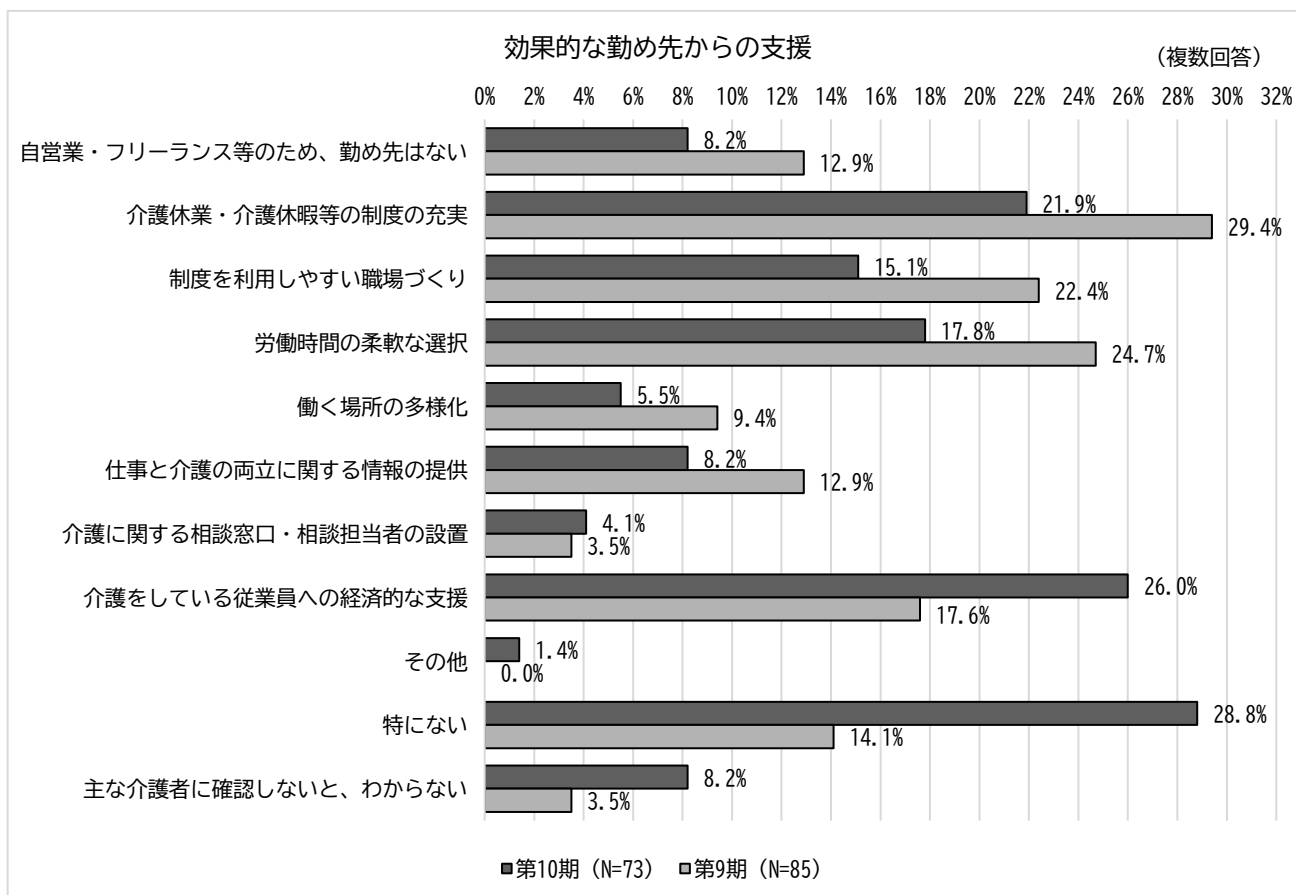


(3) 効果があると思う勤務先からの支援

《経年変化》

「介護をしている従業員への経済的な支援」が 26.0%で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 21.9%、「労働時間の柔軟な選択」が 17.8%となっています。

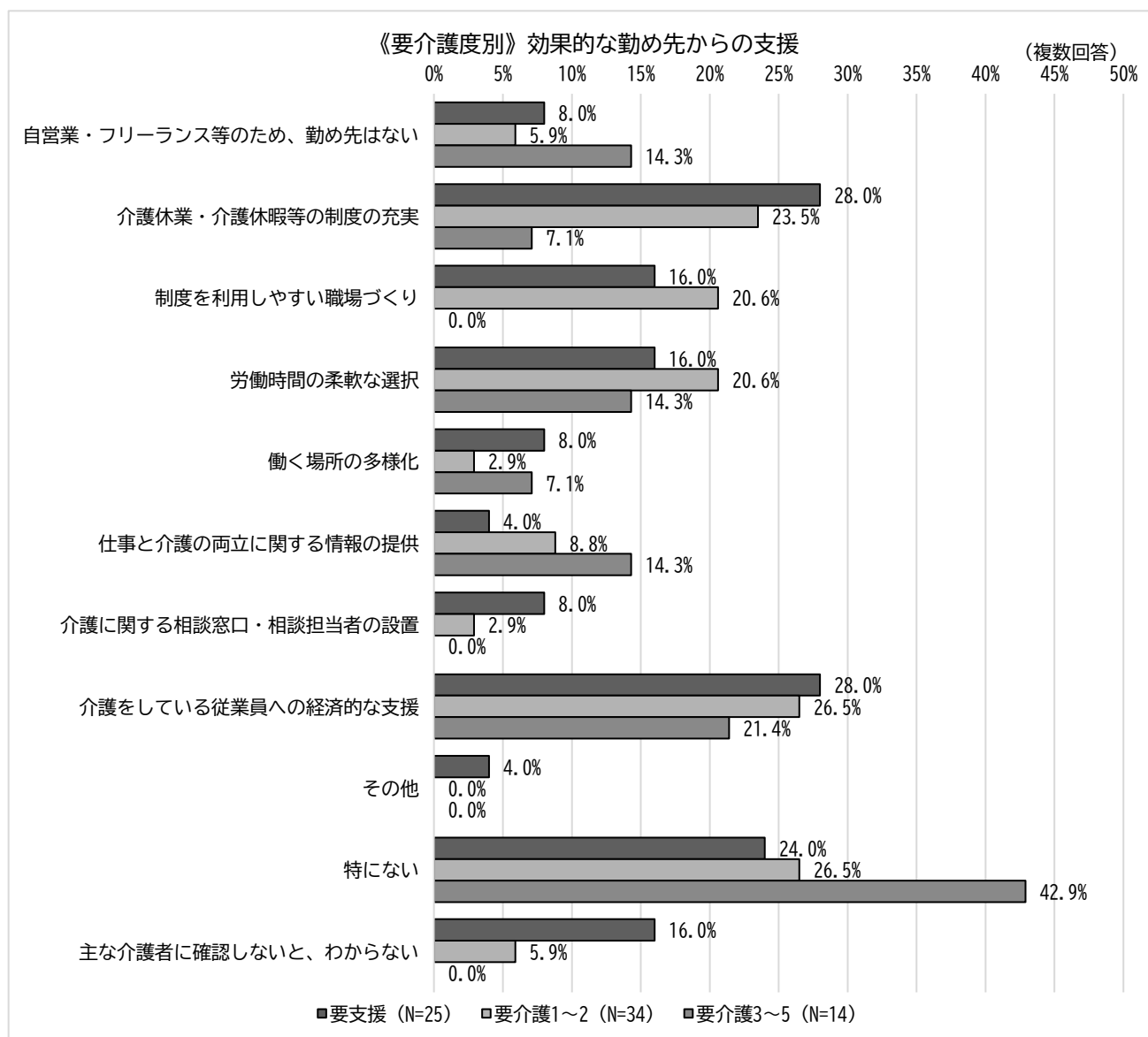
第 9 期との比較では、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 8.4 ポイント増加し、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 7.5 ポイント、「制度を利用しやすい職場づくり」が 7.3 ポイント、「労働時間の柔軟な選択」が 6.9 ポイント減少しています。



《要介護度別》

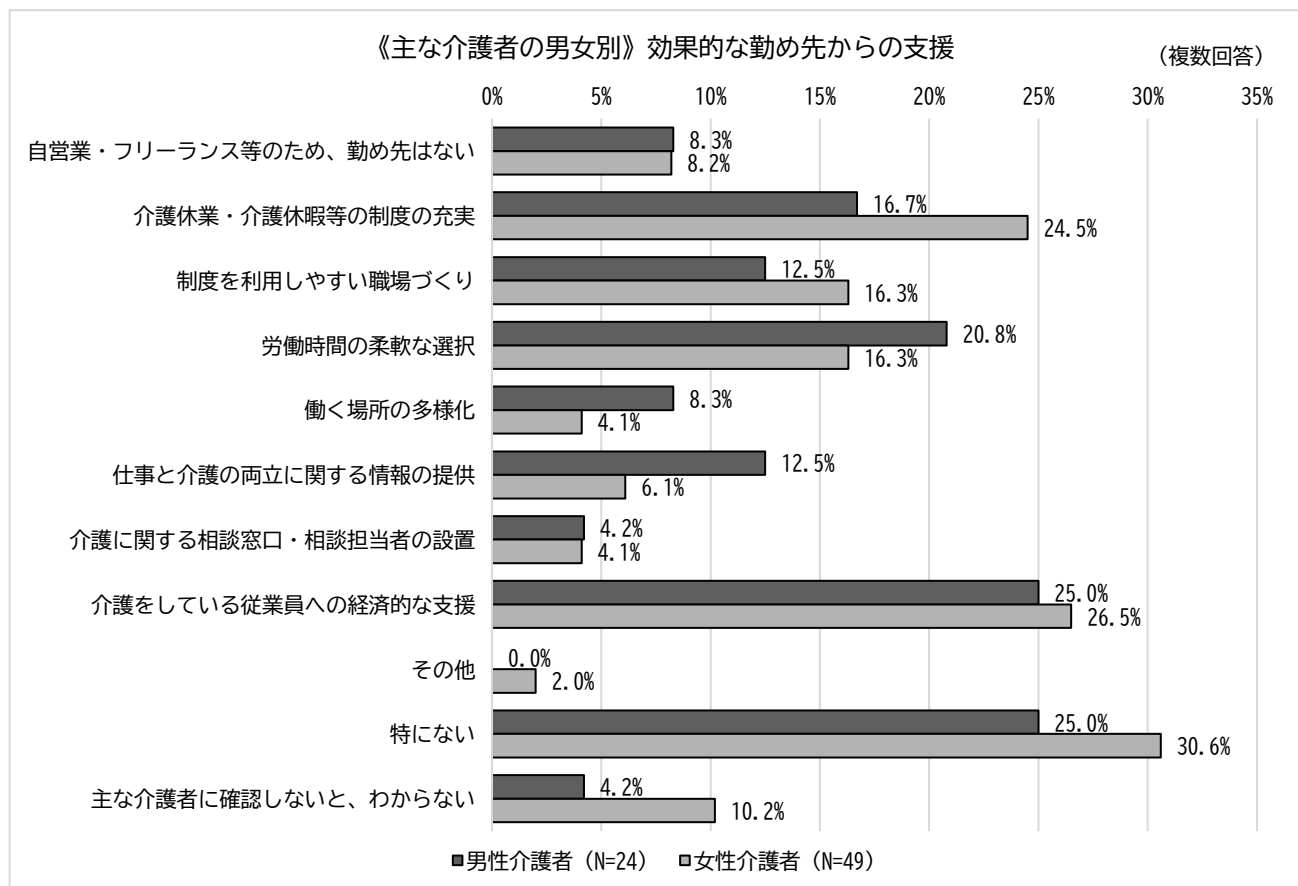
「要支援」は「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「介護をしている従業員への経済的な支援」が共に28.0%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」「労働時間の柔軟な選択」が共に16.0%、「要介護1～2」は「介護をしている従業員への経済的な支援」が26.5%で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が23.5%、「制度を利用しやすい職場づくり」「労働時間の柔軟な選択」が共に20.6%、「要介護3～5」は「介護をしている従業員への経済的な支援」が21.4%で最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択」「仕事と介護の両立に関する情報の提供」「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」がいずれも14.3%となっています。

また、「要支援」は「介護をしている従業員への経済的な支援」「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「働く場所の多様化」「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」が他の介護度より多く、「要介護1～2」は「労働時間の柔軟な選択」「制度を利用しやすい職場づくり」が他の介護度より多く、「要介護3～5」は「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」「仕事と介護の両立に関する情報の提供」が他の介護度より多くなっています。



《主な介護者の男女別》

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」は「女性介護者」が 24.5%に対し、「男性介護者」が 16.7%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 7.8 ポイント上回っており、「仕事と介護の両立に関する情報の提供」は「男性介護者」が12.5%に対し、「女性介護者」が6.1%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 6.4 ポイント上回っており、「労働時間の柔軟な選択」は「男性介護者」が 20.8%に対し、「女性介護者」が 16.3%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 4.5 ポイント上回っています。

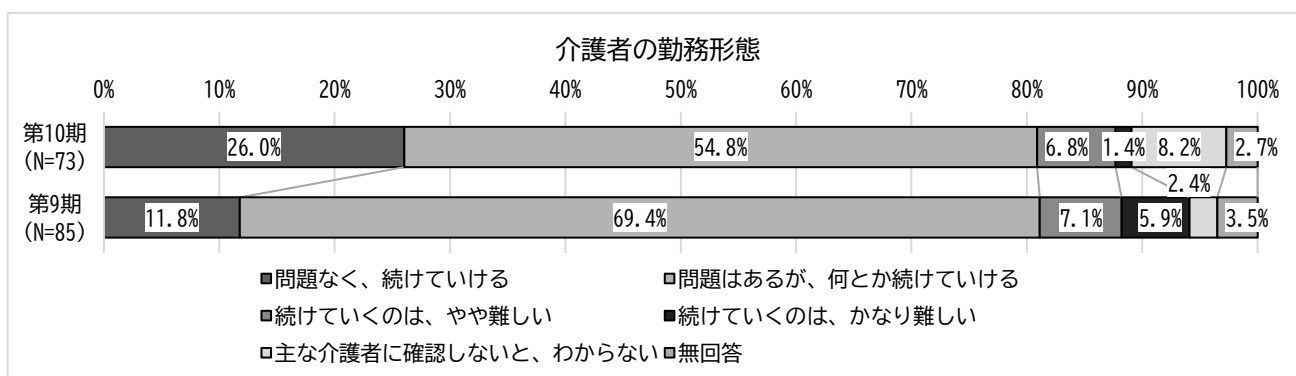


(4) 介護者の就労継続について

《経年変化》

「問題はあるが、何とか続けていける」が 54.8%で最も多く、「問題なく、続けていける」(26.0%)と合わせると、『継続可能』と感じている人が 80.8%となっています。また、「続けていくのは、やや難しい」(6.8%)と「続けていくのは、かなり難しい」(1.4%)と合わせると、『継続不可能』と感じている人が 8.2%で、『継続可能』が『継続不可能』を 72.6 ポイント上回っています。

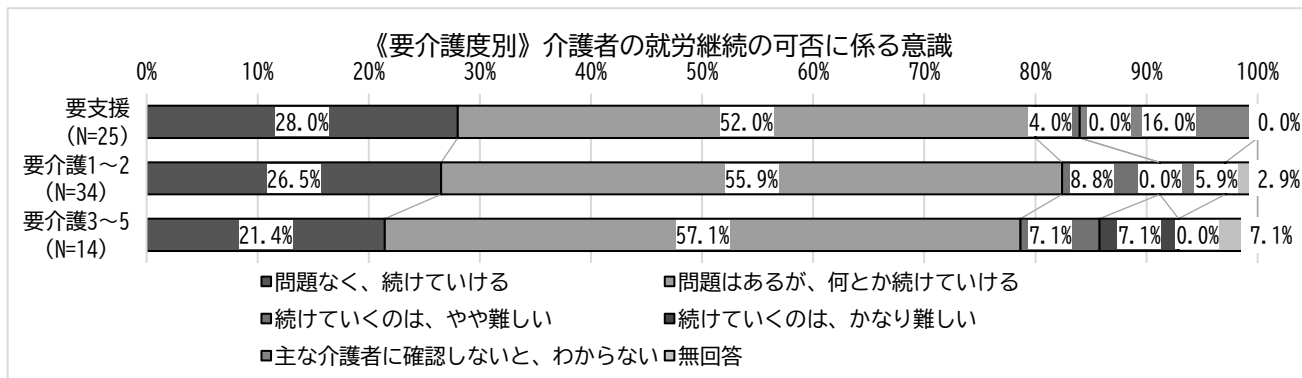
経年変化をみると、「問題なく、続けていける」は第 9 期の 11.8%から第 10 期は 26.0%へと、14.2ポイント増加し、「問題はあるが、何とか続けていける」は第 9 期の 69.4%から第 10 期は 54.8%へと、14.6 ポイント減少しています。



《要介護度別》

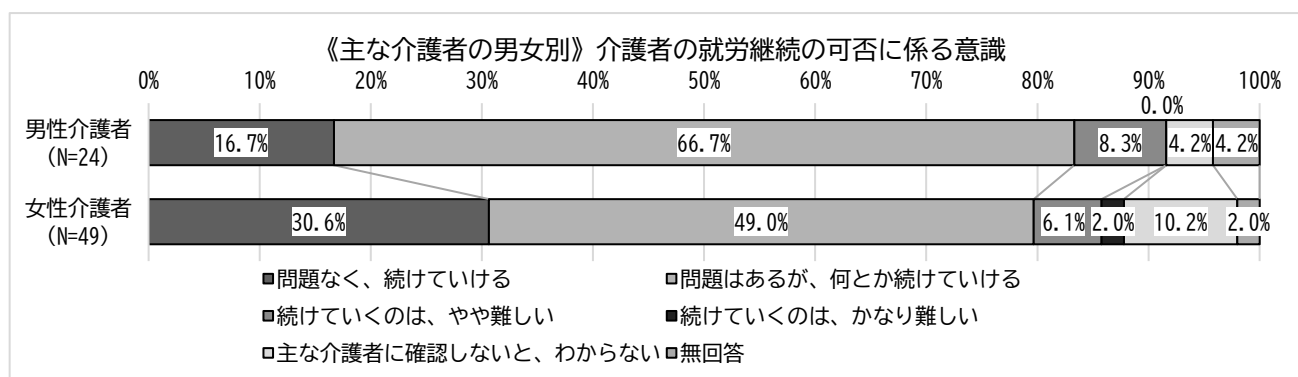
「主な介護者に確認しないと、わからない」を除いて、「要支援」は「問題はあるが、何とか続けていける」が 52.0%でもっとも多く、次いで「問題なく、続けていける」が 28.0%、「続けていくのは、やや難しい」が 4.0%、「続けていくのは、かなり難しい」が 0.0%、「要介護 1～2」は「問題はあるが、何とか続けていける」が 55.9%、「問題なく、続けていける」が 26.5%、「続けていくのは、やや難しい」が 8.8%、「続けていくのは、かなり難しい」が 0.0%、「要介護 3～5」は「問題はあるが、何とか続けていける」が 57.1%でもっとも多く、次いで「問題なく、続けていける」が 21.4%、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」が共に 7.1%となっています。

以上のように、介護度が重くなるほど、働き続けるのが難しいと感じる割合が増える傾向を示しています。



《主な介護者の男女別》

「問題なく、続けていける」は「女性介護者」は 30.6%に対し、「男性介護者」は 16.7%と、「女性介護者」が「男性介護者」を 13.9 ポイント上回り、「問題はあるが、何とか続けていける」は「男性介護者」が 66.7%に対し、「女性介護者」は 49.0%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 17.7 ポイント上回っています。



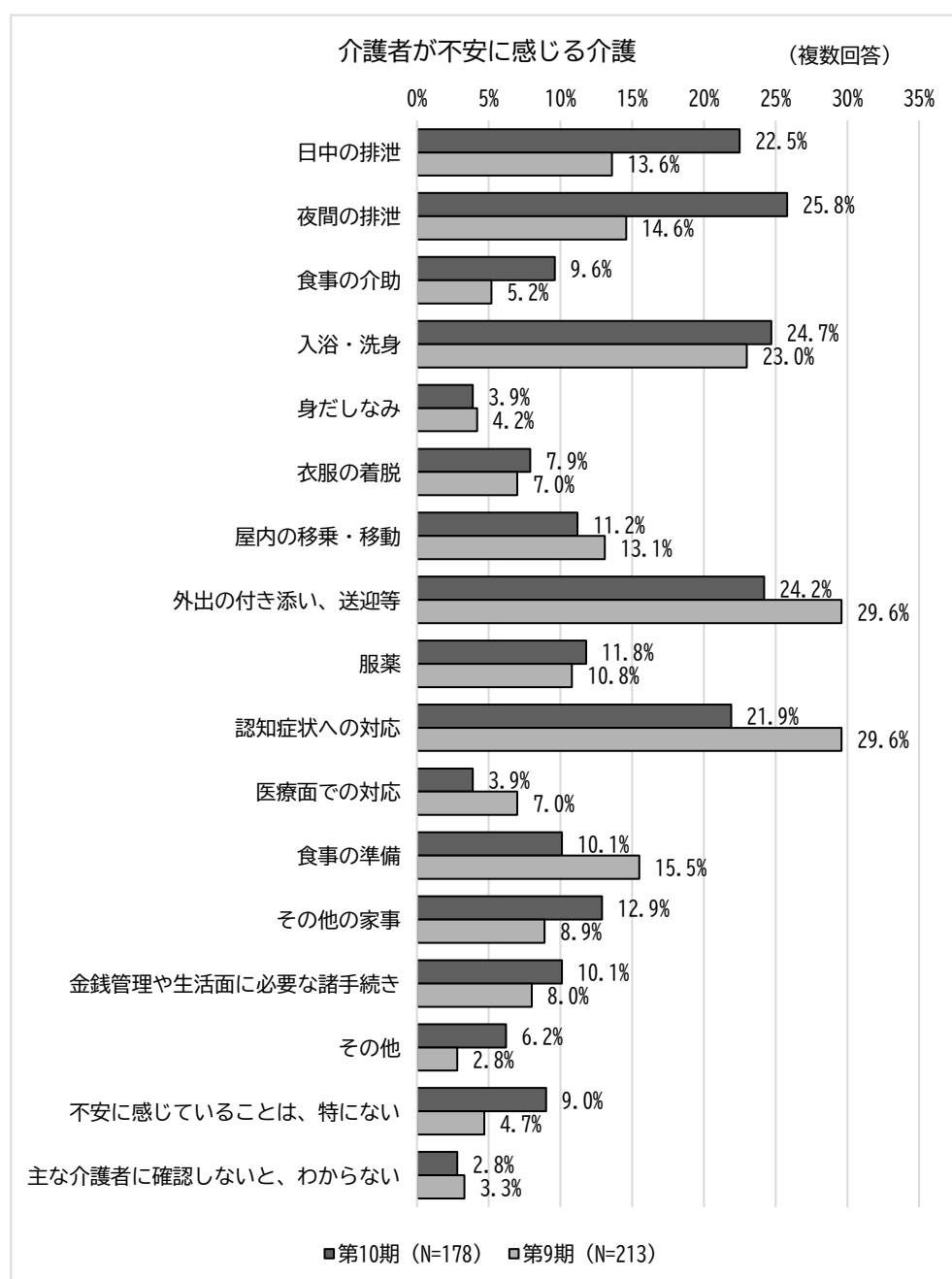
(5) 介護者が不安に感じる介護

《経年変化》

「夜間の排泄」が25.8%で最も多く、次いで「入浴・洗身」が24.7%、「外出の付き添い、送迎等」が24.2%となっています。

経年変化をみると、「夜間の排泄」は第9期の14.6%から第10期は25.8%へと11.2ポイント増加し、「日中の排泄」は第9期の13.6%から第10期は22.5%へと8.9ポイント増加しています。

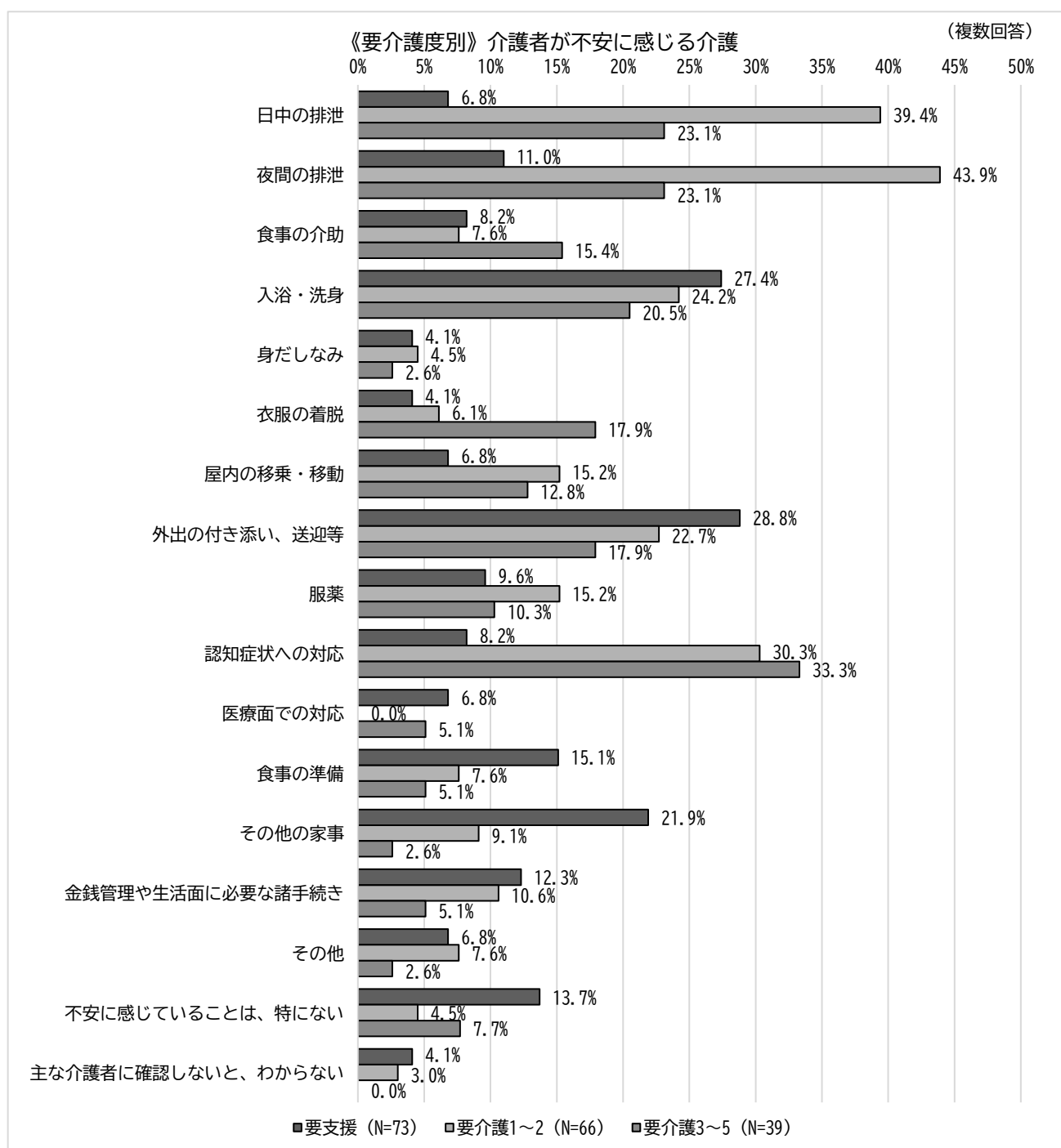
また、「認知症状への対応」は第9期の29.6%から第10期は21.9%へと7.7ポイント減少し、「外出の付き添い、送迎等」は第9期の29.6%から第10期は24.2%へと5.4ポイント減少しています。



《要介護度別》

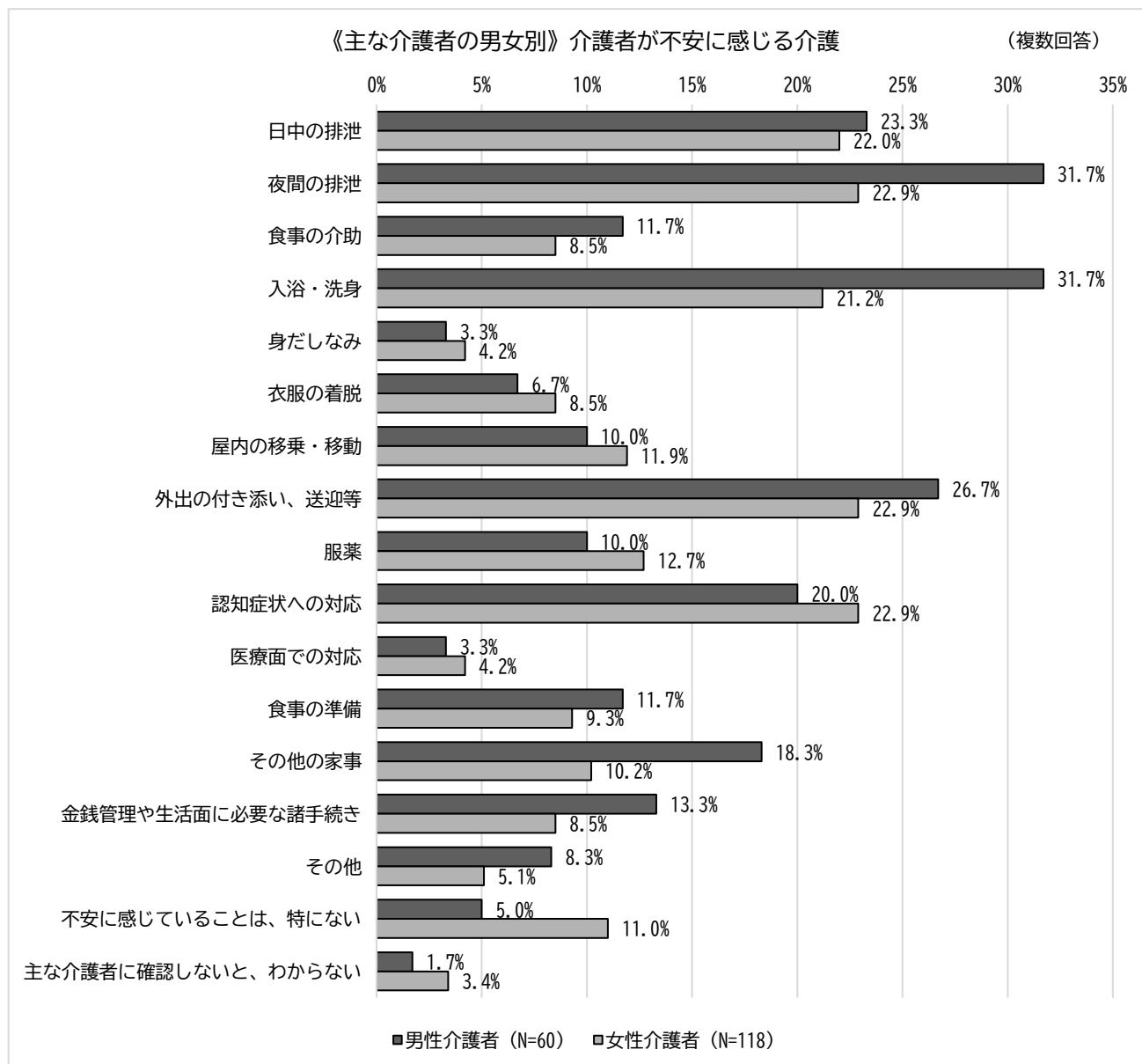
「要支援」は「外出の付き添い、送迎等」が 28.8%で最も多く、次いで「入浴・洗身」が 27.4%、「その他の家事」が 21.9%、「要介護 1～2」は「夜間の排泄」が 43.9%で最も多く、次いで「日中の排泄」が 39.4%、「認知症状への対応」が 30.3%、「要介護 3～5」は「認知症状への対応」が 33.3%で最も多く、次いで「夜間の排泄」「日中の排泄」が共に 23.1%となっています。

また、「要支援」は「外出の付き添い、送迎等」「入浴・洗身」「その他の家事」「食事の準備」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」「医療面での対応」が他の介護度より多く、「要介護 1～2」は「夜間の排泄」「日中の排泄」「服薬」「屋内の移乗・移動」「身だしなみ」が他の介護度より多く、「要介護 3～5」は「認知症状への対応」「衣服の着脱」「食事の介助」が他の介護度より多くなっています。



《主な介護者の男女別》

「入浴・洗身」は「男性介護者」が 31.7%に対し、「女性介護者」が 21.2%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 10.5 ポイント上回っており、「夜間の排泄」は「男性介護者」が 31.7%に対し、「女性介護者」が 22.9%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 8.8 ポイント上回っており、「その他の家事」は「男性介護者」が 18.3%に対し、「女性介護者」が 10.2%と、「男性介護者」が「女性介護者」を 8.1 ポイント上回っています。



4. 介護の状況と施設入所の意向について

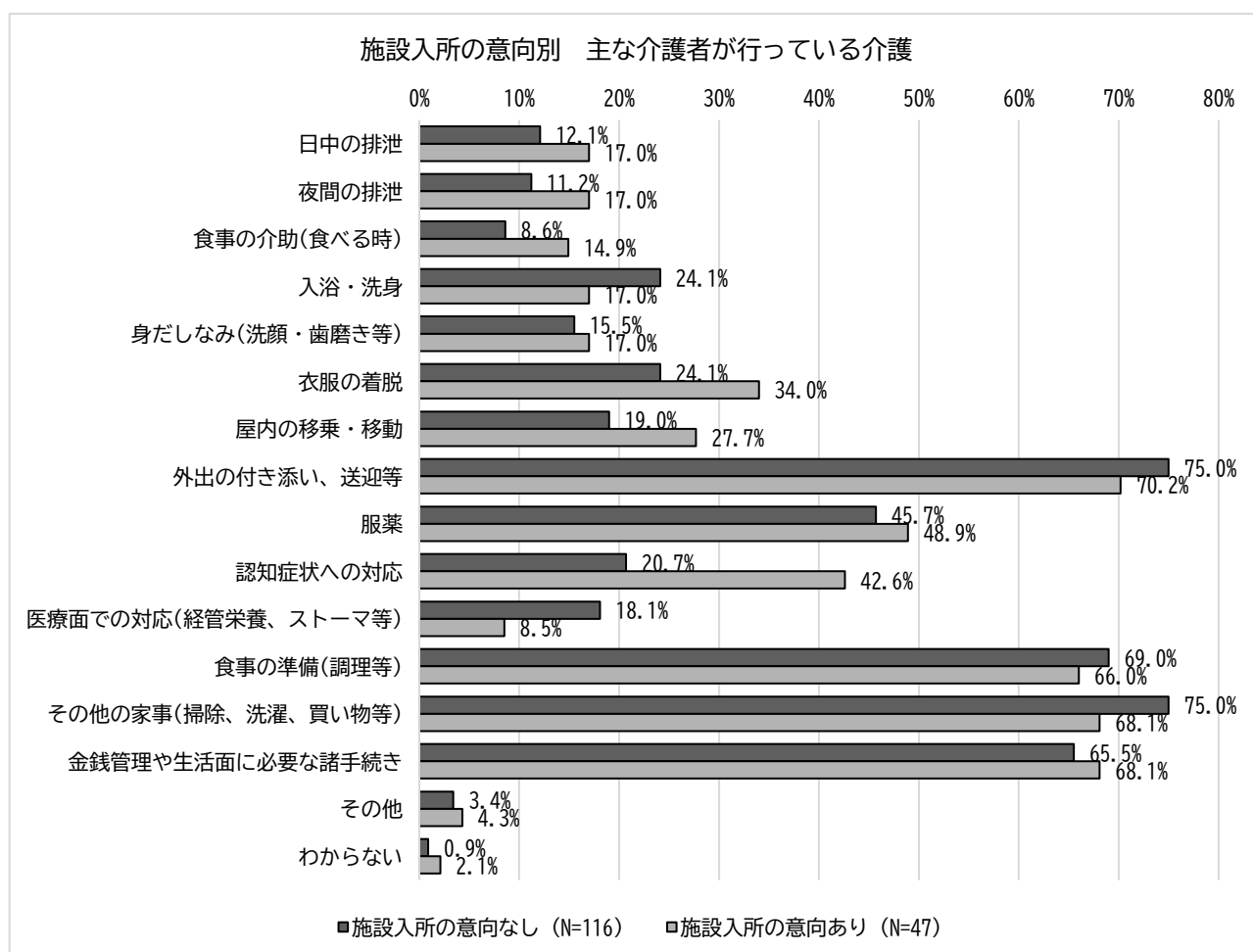
介護に関わるどのような要因が施設入所の意向に影響を与えているかを検討するため、「問 10 施設等の入所の検討状況」と介護に関わる質問項目のクロス集計を行いました。

「施設入所の意向なし」(「入所・入居は検討していない」と「施設入所の意向あり」(「入所・入居を検討している」と「すでに入所・入居申し込みをしている」の合計)を目的変数として集計分析しました。

《施設入所の意向別 主な介護者が行っている介護》

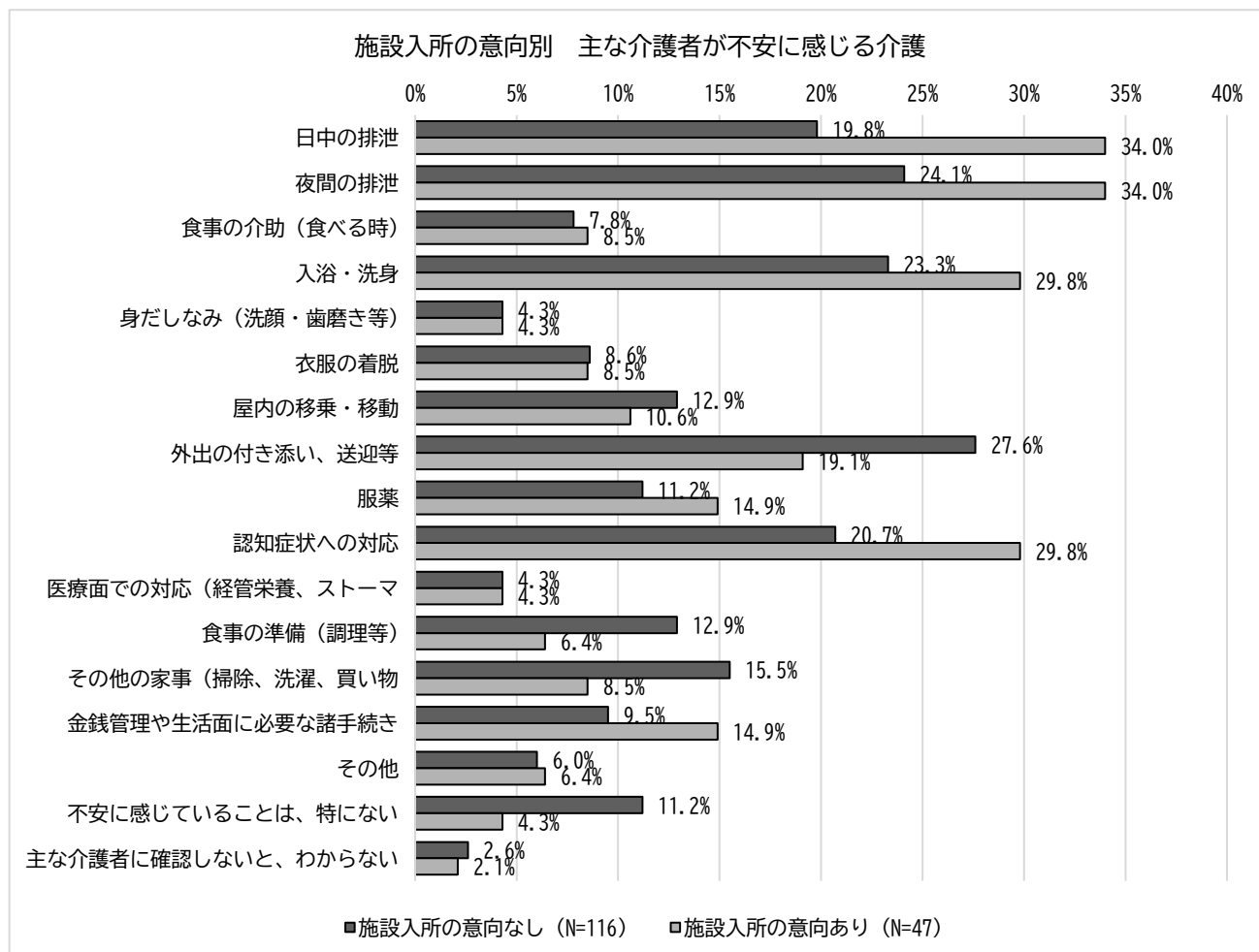
「認知症状への対応」は「施設入所の意向あり」が 42.6%に対し、「施設入所の意向なし」は 20.7%と、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を 21.9 ポイント上回り、「衣服の着脱」は「施設入所の意向あり」が

34.0%に対し、「施設入所の意向なし」は 24.1%と、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を 9.9 ポイント上回り、「屋内の移乗・移動」は「施設入所の意向あり」が 27.7%に対し、「施設入所の意向なし」は 19.0%と、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を 8.7 ポイント上回っています。



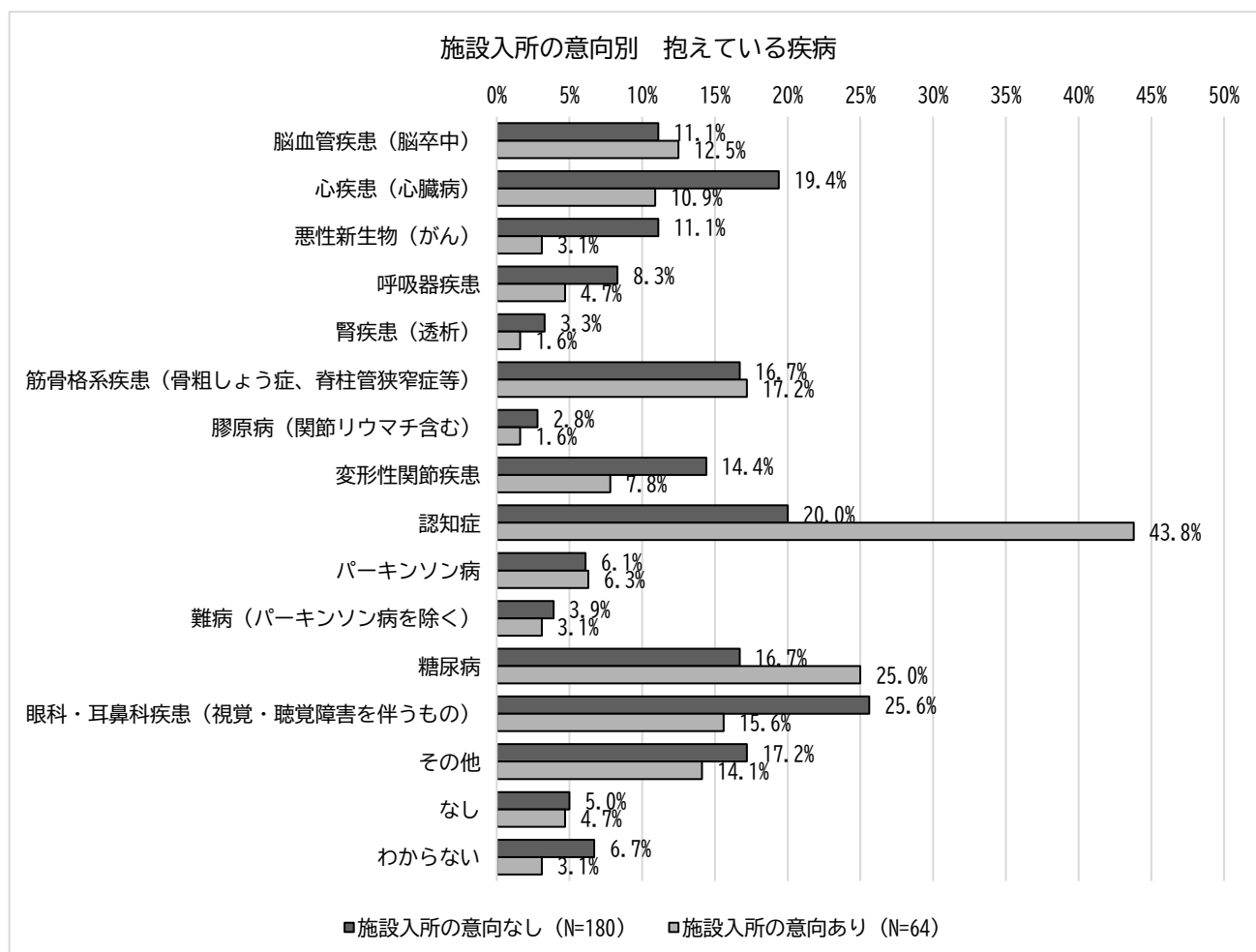
《施設入所の意向別 主な介護者が不安に感じる介護》

「日中の排泄」は「施設入所の意向あり」が 34.0%に対し、「施設入所の意向なし」は 19.8%と、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を 14.2 ポイント上回り、「夜間の排泄」は「施設入所の意向あり」が 34.0%に対し、「施設入所の意向なし」は 24.1%と、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を 9.9 ポイント上回り、「認知症状への対応」は「施設入所の意向あり」が 29.8%に対し、「施設入所の意向なし」は 20.7%と、施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を 9.1 ポイント上回っています。



《施設入所の意向別 抱えている疾病》

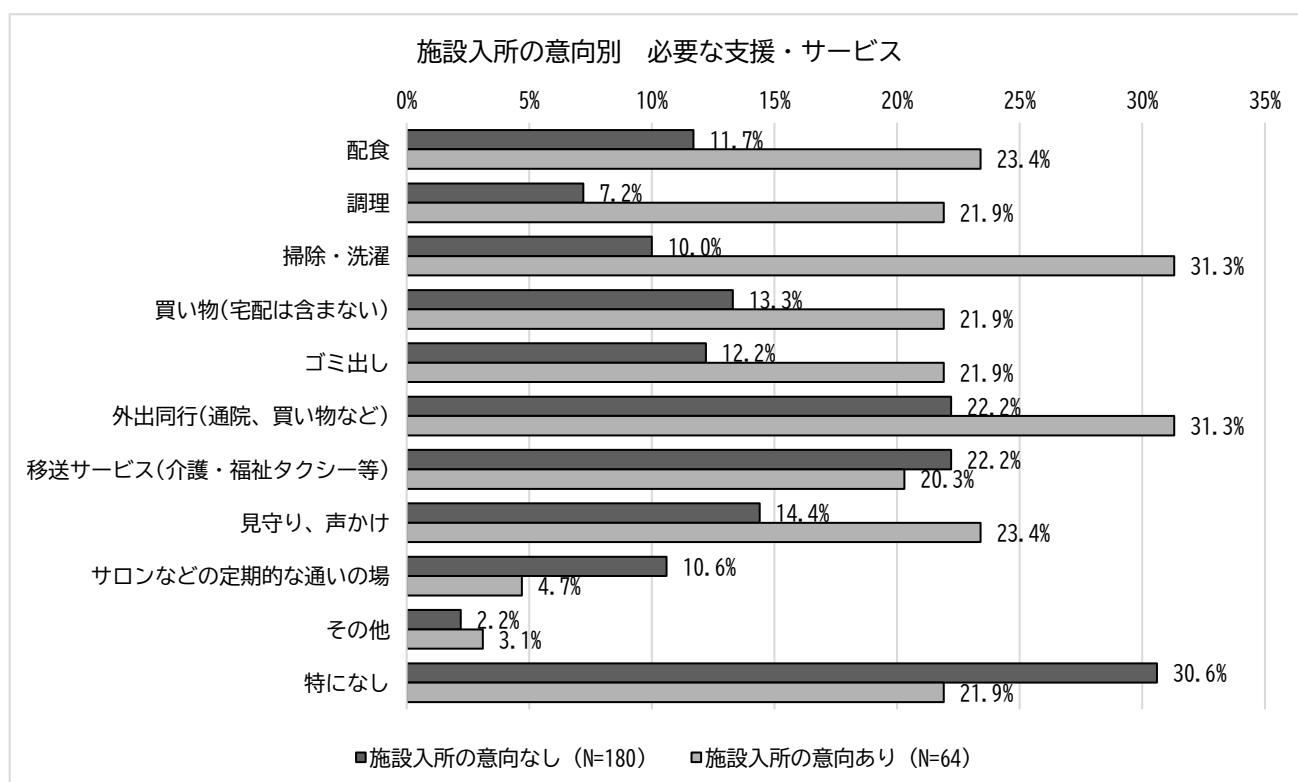
「認知症」は「施設入所の意向あり」が43.8%に対し、「施設入所の意向なし」は20.0%と、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を23.8ポイント上回り、「糖尿病」は「施設入所の意向あり」が25.0%に対し、「施設入所の意向なし」は16.7%と、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を8.3ポイント上回っています。



《施設入所の意向別 必要な支援・サービス》

「掃除・洗濯」は「施設入所の意向あり」が31.3%に対し、「施設入所の意向なし」は10.0%と、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を21.3ポイント上回り、「調理」は「施設入所の意向あり」が21.9%に対し、「施設入所の意向なし」は7.2%と、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を14.7ポイント上回り、「配食」は「施設入所の意向あり」が23.4%に対し、「施設入所の意向なし」は11.7%と、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を11.7ポイント上回っています。

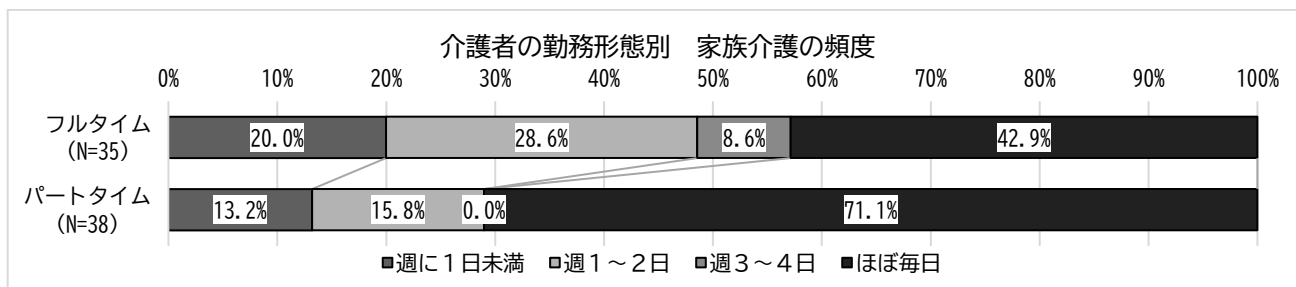
その他にも、「施設入所の意向あり」が「施設入所の意向なし」を大きく上回っているものは「ゴミ出し」「外出同行(通院、買い物など)」「見守り、声かけ」「買い物(宅配は含まない)」となっています。



5. 仕事と介護について

(1) 介護者の勤務形態と家族等の介護の頻度

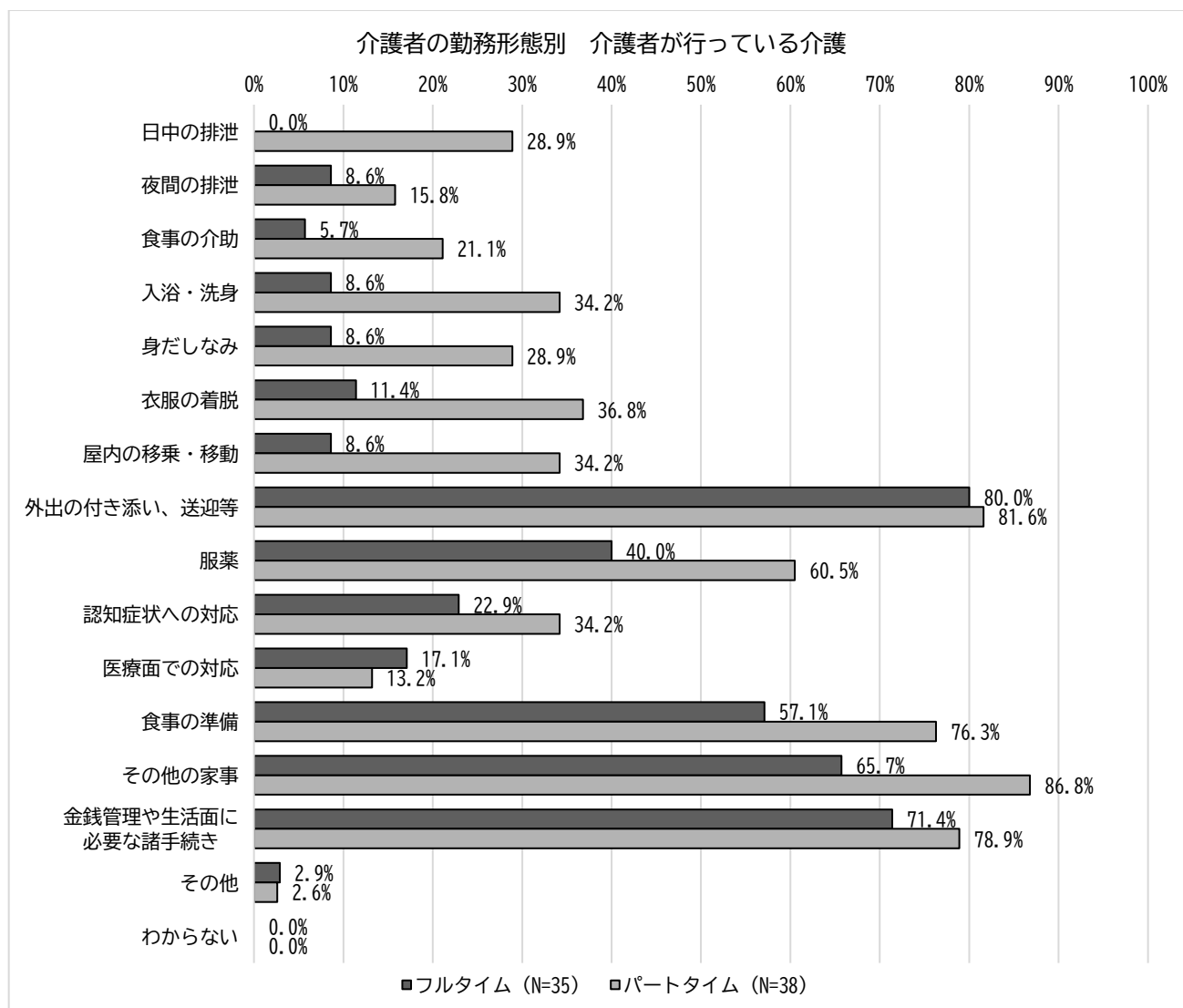
「ほぼ毎日」は「パートタイム」が 71.1%に対し、「フルタイム」が 42.9%と「パートタイム」が「フルタイム」を 28.2 ポイント上回っており、「週1～2日」は「フルタイム」が 28.6%に対し、「パートタイム」が 15.8%と「フルタイム」が「パートタイム」を 12.8 ポイント上回っています。



(2) 介護者の勤務形態と介護者が行っている介護

フルタイムは「外出の付き添い、送迎等」が 80.0%で最も多く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 71.4%、「その他の家事」が 65.7%、「食事の準備」が 57.1%、「服薬」が 40.0%、パートタイムは「その他の家事」が 86.8%で最も多く、「外出の付き添い、送迎等」が 81.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 78.9%、「食事の準備」が 76.3%、「服薬」が 60.5%となっています。

「医療面での対応」を除いて、すべての項目でパートタイムがフルタイムを上回っています。



III. 考察～住み慣れた地域で暮らし続けるために～

1. 家族介護者の高齢化と「老老介護」による身体的・精神的負担の深刻化

在宅介護を支える最大の基盤である家族介護者の高齢化が進んでおり、とりわけ重度者において老老介護の負担が浮き彫りになっています。家族介護者の年齢をみると、要介護 3～5 を介護している層では「70 歳代」が 35.9%でもっとも多く、次いで「60 歳代(25.6%)」「80 歳以上(20.5%)」となっており、重度者ほど介護者の高齢化が進んでいます。世帯類型別にみても、「夫婦のみ世帯」における介護者の年齢は「70 歳代(39.3%)」「80 歳以上(27.9%)」が上位を占め、高齢の配偶者が主たる介護を担う体制となっています。このような高齢の介護者にとって、要介護度が上がるにつれて増加する「食事の準備」「金銭管理」「衣服の着脱」「排泄」といった日常的な介助は大きな負担となります。現に、介護者が不安に感じる介護として、「夜間の排泄(25.8%)」「入浴・洗身(24.7%)」が上位に挙がっており、特に第 9 期調査からの経年比較において「夜間の排泄(11.2 ポイント増)」や「日中の排泄(8.9 ポイント増)」への不安が高まっています。高齢の介護者が自身の体力と健康を気にしながら日夜の排泄・入浴介助を担っている状況は、在宅生活の継続を阻む要因であり、ショートステイや夜間対応型サービスの拡充など、介護者の休息(レスパイト)を担保する仕組みの構築が必要です。

2. 「仕事と介護の両立」の困難さと介護離職リスクの顕在化

生産年齢人口における家族介護者においては、仕事と介護の両立が困難な状況に直面しており、経済的基盤の喪失(介護離職)が在宅介護の破綻に直結するリスクをはらんでいます。調査結果によると、主な介護者が「仕事を辞めた(転職除く)」割合は全体で 7.3%存在し、特に「要介護 1～2」の比較的軽度な段階から介護離職(9.1%)が発生しています。また、男女別にみると男性介護者の離職率(10.0%)が女性(5.9%)を上回っており、主たる生計維持者となりやすい男性の離職が世帯の経済的困窮を招く恐れがあります。就労を継続している介護者であっても、要介護度が重くなるにつれて「労働時間を調整」するなどの働き方の工夫を余儀なくされており、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」といった就労継続への限界を感じる割合も要介護度の上昇とともに増加しています。介護者が勤務先に求める支援として「介護をしている従業員への経済的な支援(26.0%)」や「介護休業・介護休暇等の制度の充実(21.9%)」が高い水準で求められており、地域包括支援センター等の専門職が早期に介入し、介護保険サービス等を適切に組み合わせることで、介護離職を未然に防ぐ支援体制の構築が求められます。

3. 高まる医療ニーズ(認知症等)への対応と重度化を見据えた在宅医療の確保

在宅生活をおびやかす要因として、認知症や重度の疾病を抱えながら生活する高齢者の増加が課題となっています。要介護高齢者が抱える傷病として「認知症」が 24.6%で最多となっており、第 9 期と比較して 18.8 ポイント増加しています。特に「要介護 1～2」の段階で「認知症」を抱える割合が 46.1%と高く、軽・中等度の段階からの認知症ケアの必要性が高まっていることがわかります。「要介護 3～5」の重度層の家族介護者が不安に感じる介護のトップも「認知症状への対応(33.3%)」であり、家族だけでは対応しきれない認知症特有の周辺症状(BPSD)に対する専門的なサポートが不可欠です。また、訪問診療を利用している割合は全体では 19.9%にとどまるものの、「要介護 3～5」では 37.3%に達しており、重度化するにつれて在宅での医療的ケアの重要性が増しています。住み慣れた自宅で最期まで暮らし続けるためには、地域の医療機関と介護事業所が緊密に連携し、認知症対応と在宅看取りを支える 24 時間体制の医療・介護連携ネットワークの深化が課題となります。

4. 家族の負担軽減と生活維持のための「移動支援・外出支援」のニーズ

本町のような地理的特性のある地域において、在宅介護を継続するためには「移動手段の確保」が重要です。現在、家族介護者が行っている介護の内容として最も高いのが「外出の付き添い、送迎等(72.5%)」です。また、必要な支援サービスとして介護保険外で最も求められているのも「外出同行(通院、買い物など)(23.9%)」や「移送サービス(介護・福祉タクシー等)(20.2%)」であり、高齢者の「移動手段」が家族介護者に重い負担となっています。特に、独居高齢者(単身世帯)や老老介護世帯においては、自力で通院や買い物に行くことが困難となった時点で在宅生活は難しくなります。要介護高齢者が地域社会とつながりを保ち、家族の送迎負担を物理的に軽減するためには、乗合タクシーや有償ボランティアを活用した移送サービスの拡充が課題です。

5. 施設入所意向の高まりと、それを防ぐための「介護保険外サービス」の拡充

これらの複合的な課題が解決されない場合、最終的に在宅生活の断念(施設入所)という選択に至る可能性が高いことがデータから示唆されています。「入所・入居を検討している(12.9%)」と「すでに入所・入居申し込みをしている(10.7%)」を合わせると、すでに全体の2割強が施設入所を考えており、要介護1以上の層に限れば、その割合は4割近くに達します。

施設入所意向のある層が「必要な支援・サービス」として求めているものをみると、「掃除・洗濯(31.3%、意向なし層との差21.3ポイント)」「調理(21.9%、同14.7ポイント差)」「配食(23.4%、同11.7ポイント差)」「ゴミ出し」といった日常のインフォーマルな生活支援のニーズが高くなっています。

これは、身体介護だけでなく、日々の家事負担が家族を疲弊させ、在宅生活を諦める一因になっていることを示唆しています。高まる施設入所意向から、在宅生活の限界点を引き上げるためには、要支援や要介護1～2といった早期の段階から、「外出同行」や「配食」「移送サービス」「掃除・洗濯」「ゴミ出し」といったインフォーマルな介護保険外サービスを地域全体で整備・提供し、家族介護者の負担を社会全体でシェアしていく互助の仕組み(生活支援体制整備事業等の推進)を確立することが求められます。